

沼津高専だより

第108号

平成28年3月9日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

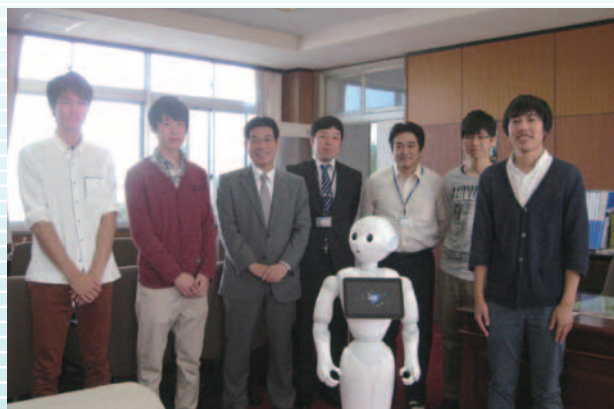
TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



高専祭



高専祭



Pepper寄付



学習サポートセンター開所式



機構理事視察



文化講演会

目次

☆沼津工業高等専門学校**の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針**

☆**校長・副校長・校長補佐から（平成27年度総評）**

沼津高専に赴任して…………… 学校長 藤本 晶 …… 4

沼津高専へのご支援を…………… 副校長（教務主事） 蓮 實 文 彦 …… 4

長い間ありがとうございました…………… 校長補佐（学生主事） 大久保清美 …… 5

平成27年度の学生寮を振り返って…………… 校長補佐（寮務主事） 小 林 美 学 …… 6

特例適用追加審査とJABEE実地審査を乗り越えた専攻科…………… 校長補佐（専攻科長） 高 野 明 夫 …… 6

☆**各学科から（平成27年度総評）**

平成27年度末にあたって…………… 機械工学科長 村 松 久 巳 …… 7

平成27年度を振り返って…………… 電気電子工学科長 佐 藤 憲 史 …… 7

平成27年度を振り返って…………… 電子制御工学科長 遠 山 和 之 …… 8

平成27年度を振り返って…………… 制御情報工学科長 藤 尾 三 紀 夫 …… 8

今年度を振り返って…………… 物質工学科長 後 藤 孝 信 …… 9

今だからこそ身に着けたい二つの「力」…………… 教養科長 勝 山 智 男 …… 9

☆**国際交流室から**

今年度の学生の海外研修と将来の展望…………… 国際交流室長 鈴 木 久 博 …… 10

☆**人事異動について**

平成27年度 人事異動…………… 11

☆**部活動**

第50回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 12

第53回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 12

全国大会出場報告

結果がすべて…………… 卓球部 桑 原 康 介 …… 13

初めての全国大会…………… 水泳部 川 口 大 和 …… 13

☆**行事・コンテスト・その他イベント**

●**体 育 祭**

平成27年度体育祭における新しい試み…………… 体育祭実行委員長 坂 寄 裕 二 …… 14

●**高 専 祭**

第50回“星”…………… 高専祭実行委員長 神 間 峻 介 …… 15

●**3年スキー合宿**

天候に恵まれた3年生スキー合宿研修…………… 3学年合宿研修担当 鈴 木 尚 人 …… 16

●**ロボットコンテスト2015**

No Creative, No Change…………… ロボコン部顧問 青 木 悠 祐 …… 16

～ロボコン部の挑戦～

経験から成長する…………… ロボコン部部长 関 優 志 …… 17

●**その他イベント**

○**東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト**

Acceptance…………… 機械工学科4年 茶 田 智 来 …… 17

スピーチコンテストに向けて…………… 物質工学科4年 青 木 匠 門 …… 18

○**全国高専デザインコンペティション**

「ささえあい」のデザコン…………… 制御情報工学科4年 池 神 奈 穂 美 …… 18

○**第10回読書感想文コンクール**…………… 19

読書感想文に見る発想の豊かさ…………… 図書館長 中 園 孝 信 …… 20

☆**退職教職員から**

「富士山に向かい」…………… 機械工学科 宮 内 太 積 …… 20

次世代への橋渡し…………… 物質工学科 押 川 達 夫 …… 21

☆**卒業生・修了生から**

高専生がよくやってしまう過ち…………… 制御情報工学科5年 加 藤 貴 也 …… 21

高専生活を振り返って…………… 物質工学科5年 太 田 智 也 …… 22

7年間を通して…………… 総合システム工学専攻2年（環境エネルギー工学コース） 善 養 寺 千 裕 …… 22

高専生活を振り返って…………… 総合システム工学専攻2年（新機能材料工学コース） 森 大 洋 …… 23

☆**私の高専時代**

人生の分岐点となった高専時代…………… 電子制御工学科2期 大 庭 勝 久 …… 23

☆**学生の研究活動（2015. 4. 1～2016. 3. 31）**…………… 24

☆**平成27年度卒業生・修了生進路先一覧**…………… 29

☆**教育後援会から**

卒業に際して…………… 教育後援会会長 鈴 木 邦 裕 …… 31

☆**同窓会から**

みなさん同窓会へようこそ…………… 同窓会会長 木 戸 実 …… 31

（卒業生、在学生みんなのネットワーク）

☆**事務部から**

平成28年度前期分授業料の免除および徴収猶予について…………… 33

沼津工業高等専門学校意見箱について…………… 33

平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）行事予定表…………… 34

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

本科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専攻科

学習・教育目標

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

(A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。

(A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。

(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。

(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

(D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。

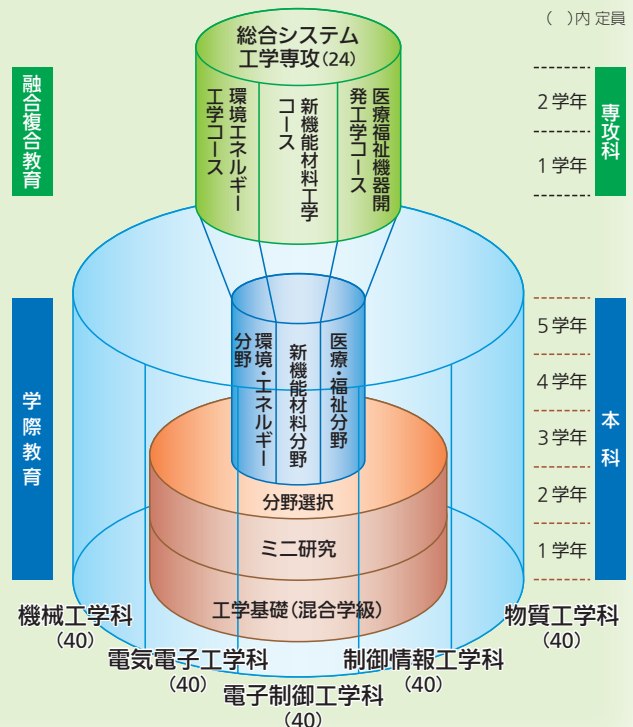
(D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。

(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

本科の学際教育を深化する専攻科3コース



校長・副校長・校長補佐から (平成27年度総評)



沼津高専に赴任して

学校長
藤本 晶

昨年4月に赴任して、ようやく1年が過ぎようとしています。赴任して最初に感じたのは、交通の便、周辺の人口や地域産業等、沼津高専は極めて恵まれた環境に置かれているということでした。この恵まれた環境にある沼津高専に、前任校や企業で得た私の知識や経験をどのように活かすことができるかを考えてきた1年でした。その中で沼津高専に限らず、高専に共通する幾つかの問題、特に学生に影響のある問題を中心に、改善策を手掛けてきました。

高等専門学校教育の特色は、一般に言われている5年間の技術者一貫教育や、そのための実験実習の豊富さもありますが、学生や保護者の立場からは、教員との距離の近さや個々の学生に合わせたきめ細かな教育、そして大学受験の無い学生生活等が挙げられます。その反面留年や退学が多いこと、人間関係や視野が狭くなりがちといった問題点もあります。これら長所や短所を認識し、対処することが、よりよい学校への最初のステップだと考えています。

学校との距離を縮め、学校への親しみやすさを増してもらうために、学校のホームページに「最新の記事一覧」欄を作ってもらい、そこに学校でのイベントや学生や教職員の活動、学校関係の新聞記事等、学内の出来事ができるだけ多く掲載するようにしました。もちろん良いニュースばかりではありませんが、親元を離れて学んでいる学生の保護者の方はもちろんのこと、広く一般の方々にも学校の状況を垣間見ていただけるものと思います。

また保護者の方に学校の状況や動きを直接伝え、保護者の方の疑問点や感じることを学校関係者に伝えることができる機会を少しでも多く作ろうと、教育後援会の中に支部組織を作ってもらいました。平成28年度からは、各支部において学校関係者との意見交換の場を年に数回設定したいと考えています。これによって学校まで足を



保護者説明会

運んでいただかなくても、自宅に近い会場で気軽に学校と意見交換をしてもらえるようになります。趣旨ご理解のほどよろしくお願いします。

本校の学生には、全員に入学許可を与えています。許可した以上、卒業まで指導する必要があります。しかし現実には、留年する学生や退学を余儀なくされる学生が少なくありません。卒業生の水準を一定以上に保つためには、ある程度の留年は避けられないかもしれません。そして留年で多少遠回りしたとしても、卒業すれば技術者として活躍できるのです。しかし退学してしまえば、それも叶わないのです。日本の損失になるのはもちろん、何よりも学生の人生が変わってしまいます。

そこで留年が退学に直結しないように、同一学年で2度留年すれば強制的に退学になるという規定を廃止し、本人のやる気や取組み、それに保護者の意向等を考慮して在学できる制度を作りました。また留年者を減らし、基礎学力を向上させるために、新たに「学習サポートセンター」を設置しました。場所は図書館棟1階です。勉強で判らないことや疑問に思うことがあれば、学習サポートセンターに行けば担当の教員に聞けるようになりました。有効に利用して欲しいと思います。

まだまだ実行できていないことがたくさんありますが、できることから少しずつ手掛けて行く所存です。気が付かれたことがあれば、気軽に連絡いただければと思います。よろしくお願いします。



沼津高専へのご支援を

副校長 (教務主事)
蓮實 文彦

沼津高専は、産業界の要請に応え「進化する高専」として教育改革を断行してまいりました。平成24年度からスタートした境界領域の技術開発を担える技術者輩出を目指した「学際教育の導入」と平成26年度からの「専攻科改編」です。このうち学際教育は本年度で4年目に入り新たな授業が4年生に導入されました。「社会と工学」です。この授業は、地域企業や自治体が抱える課題を教

材に、頂いた課題に学科横断の学生チーム（5名から成る）4チームが一つの課題に取り組み、解決策を競うものです。2月には、各チームが解決策を発表し、課題を提供された企業の方々にも評価して頂く発表会がもたれます。発表会はこの原稿の締め切り後であることから、様子をご紹介できないのが残念です。提案された解決策のいくつかは、企業の方々と共に卒業研究、専攻科研究で実際の技術として作り上げることを目指します。この授業を作り上げてくれたのは、本校の将来を担う中堅・若手の先生方でした。その働きぶりは、創造的で献身的なものでした。

教務担当として重要な課題の一つが「留年・退学者」です。この課題について藤本校長は就任早々、最重要課題の一つとして捉え、様々な提案をされました。その一つが、放課後の学習支援体制の整備です。従来は、教務関係（非常勤講師、教養科教員による）、専攻科生、メンタルヘルスサイドなどばらばらに行われていた学習支援を「礎塾」と「Fiji Café」の2つに統合しました。「礎塾」は講義形式、「Fiji Café」は自学自習支援です。いずれも図書館1階の共通教室2とロビーを会場とし11月からスタートしました。連日、多くの学生が集まり、自分の課題克服に向かっていきます。この仕組みを作り上げてくれ

たのは教養科長の勝山教授、数学科の松澤准教授、電子制御の大庭准教授です。運営には3名の他、多くの数学科の先生方が連日放課後、熱心に支援に当たってくれています。

教務が担当する分野でもう一つの課題が入学志願者数減少です。平成24年以降減少し続け27年度入試は1.49倍でした。この課題についても藤本校長は早々に動かれました。その一つが教育後援会の「支部制」です。学校が地域に出向き、学校の現状説明と保護者の皆様からの声を直接伺うものです。沼津高専PRに保護者の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

私事ですが、私はこの3月をもちまして、沼津高専を退職致します。浅学非力であったことから、保護者の皆様、学生諸君のご期待に沿える十分な働きができませんでした。心よりお詫び申し上げます。次年度、教育・研究に加え学校運営でも手腕を発揮されてこられた機械工学科の小林隆志教授（現技術室長）が副校長（教務主事）に就任されます。私の時と同様、小林教授へのご支援をお願い致します。私は、4月より北見工業大学学長補佐特任教授として赴任致します。永い間のご支援、誠に有難うございました。今後とも沼津高専をどうぞよろしくお願い致します。



長い間ありがとう ございました

校長補佐（学生主事）
大久保 清 美

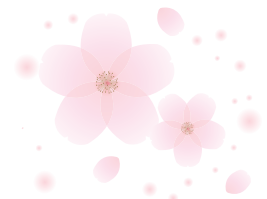
年度当初に私は、学生主事の最重要掌理事項は、学生の事故、メンタルヘルス、及び非違行為に対する「リスク・マネジメント」であると書きました。ほぼ一年経ってこれを点検評価してみると、登下校時の交通事故に関しては、原付事故が2件、自転車事故が1件で、最近4年間では最少となりました。たしかに毎朝登校の様子を見ていても、今年の学生はルールをよく守っているなど感じていましたが、それがこのような数字として表れたのではないかと嬉しく思っています。メンタルヘルスについても非違行為についても、今年度は、関係教職員のご尽力のおかげで、小さな芽のうちに適切な対応が取られることが非常に多く、結果的に多くの学生が救われました。学校を挙げての「リスク・マネジメント」が功を奏したと言えます。事の性格上、あまり表には出ませんが、地道な指導をしてくださった関係教職員の皆様に、心より御礼申し上げます。

クラブ活動については、東海地区高専体育大会卓球競技の部でC4桑原康介君が男子個人シングルス優勝、桑原君と1年3組平沢朋幹君のペアが同ダブルス優勝、水泳の部女子50m背泳ぎでC2の渡辺麻彩さんが優勝、同

男子800m自由形で1年1組川口大和君が第2位に入賞し、それぞれ全国高専体育大会に出場しました。また、全国高専デザコンAMデザイン部門で、S4池神奈穂美さん・桑原悠太君、M4家住拓生君、専攻科2年田中優斗君のグループが最優秀賞（高専機構理事長賞）を受賞、東海北陸地区高専英語スピーチコンテストではESS同好会のM4茶田智来君とC4青木匠門君がともに3位に入賞しました。皆さん、おめでとうございました。

今年度はまた、「高専ロボコン2015東海北陸地区大会」の担当校でもありました。頼りない競技委員長でしたが、補佐を務めてくださった山中先生、青木先生はじめ、教職員・学生一丸となった頑張りで、大変立派な大会運営ができました。皆様、本当にありがとうございました。

最後に私事で恐縮ですが、今年度限りで4年間務めた学生主事を退任することになりました。平成14年から寮務主事を8年、続いて校長補佐（特定業務担当）を2年、さらに学生主事を4年と、14年間にわたって学校運営の一翼を担ってきましたが、そろそろ終わりの時が来ました。これまでご指導ご鞭撻、ご支援ご協力頂いた全ての皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。





平成27年度の 学生寮を振り返って

校長補佐（寮務主事）
小林 美学

この原稿を書いているのは1月中旬。まだまだ今年度を振り返ってという心境ではありませんが、数えてみれば今年度もあと2ヶ月半、閉寮まではわずか1ヶ月半しかありません。この一年、新入生だった一年生も、後輩ができた二年生も、専門科目が増えてきた三年生も、進路を決める大事な時期だった四年生も、就職試験や入学・編入学試験で泣いたり笑ったりした五年生も、それぞれの立場でこの寮を舞台にひとまわり大きくなったと感じているなら幸いと思います。

振り返れば4月の親睦会では新入生のはつらつとした姿を見ることができ、晴天にめぐまれた5月の寮祭は練りで大いに盛り上がり、7月の夏祭りでは夜空に咲く花火をみんなで眺めました。土日に集中した夏休み前の大そうじは、昨年までの長期間の大そうじに慣れた学生には物足りないところもあったようですが、無理なくそうじを終える事ができてよかったと思います。9月のリーダー研修の炊き出しでは、みごと個性的な(?)カレーライスができあがった班もありました。10月に入ると早

くも次年度の寮長選挙、副寮長選挙が始まり、12月のクリスマスパーティーでは飾り付けた食堂でケーキを食べたりムービーを上演したりする楽しそうな寮生の姿をみる事ができました。その他にも棟別杯のドッチボールではその本気加減に驚きましたし、定期試験前を中心に開かれたマテカでは指導寮生の献身的な姿が見られました。そしてこれらの活動以外の、日数にすればはるかに多いごく普通の毎日の生活の中で、友達や先輩、後輩との間で育まれた横と縦の絆が、一人一人の心の中に一年間の寮生活の証として深く宿っていることと思います。

保護者のみなさまにおかれましては一年間、ご理解とご協力を頂き、ありがとうございました。11月に実施した寮生保護者懇談会では120名ほどの方にご参加頂き、食事やお風呂、休暇前後の荷物移動における保護者の棟内立ち入りなど様々なご意見を伺うことができました。またその際に実施した意向調査により、来年度から布団のリースサービスをご案内できることにもなりました。来年度は教育後援会に設けられる予定である寮生部会とも意見交換をしながら進めていけるものと、楽しみにしています。

さて、この原稿を書いている今、今年度もあとわずかといえどもまだまだやるがあります。今年度の寮生活の集大成を図りながらも来年度の準備を着々と進め、よりよい寮を目指したいと思います。



特例適用追加審査と JABEE実地審査を 乗り越えた専攻科

校長補佐（専攻科長）
高野 明夫

専攻科生の保護者の皆様には、日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。専攻科には平成28年1月現在で1年生26名、2年生24名の計50名が在籍しています。

専攻科は、本年度から特例適用専攻科としてスタートしました。特例適用専攻科とは、学生が学士の学位申請を行う際に、大学評価・学位授与機構の実施する筆記試験が免除される専攻科であることを意味します。しかしながら、4月当初は機械工学のみ特例が認められていなかったため、9月に追加申請を行い、機械工学も他の学位専攻と同様に特例適用の認定を受けることができました。指導教員についても、十分な人数を確保するために追加申請を行い、前回と合わせて27名が指導教員として認定されました。教員については、今後も追加申請する予定です。

11月にはJABEE（日本技術者教育認定機構）の実地審査がありました。審査は、専攻科1・2年生に本科4・

5年生を加えて、PDCAの教育改善システムが機能しているかという観点で行われます。「シラバス（授業計画書）」の改善、「ルーブリック（成績評価基準表）」・「ポートフォリオ（答案等の保存ファイル）」・「達成度レーダチャート」の導入など、学生自身に学習教育目標の達成度を確認させ、自学自習を促す仕組みを取り入れた事が、教育改善の取り組みとしてJABEE審査団から高い評価をいただきました。

最後に、2年生の進路について報告します。1月15日現在、24名中23名の進路が決定しています。就職内定者は14名（富士市役所、日医工ファーマテック、エミック、三菱化学ハイテクニカ、NHKメディアテクノロジー、ユニ・チャームプロダクツ、リンクス、森永乳業2名、堀場テクノサービス、横浜ゴム、日本電子、日興製薬、東海電子）で、大学院への進学予定者は9名（首都大学東京、名古屋大学、横浜国立大学2名、奈良先端科学技術大学院大学、東北大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、九州大学）です。残り1名は本年度内に実施される大学院入試を受験予定です。

特例適用追加審査、JABEE実地審査と大きな審査を乗り越え、新課程2年目を終えようとしている専攻科ですが、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

各学科から (平成27年度総評)



平成27年度末にあたって

機械工学科長
村松 久 巳

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、機械工学科における教育・運営にご理解とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。学科説明会には、多くの保護者に参加いただき、深く感謝申し上げます。

さて2年生と3年生が編入学と就職活動の話を5年生から聞く機会を特活の時間に設けました。就職活動とその準備、企業の選び方、編入学試験とその準備、志望大学の選び方、2年生と3年生で取り組んでおくことなどについて説明しました。夢と希望を達成するためには、志を立てて気持ちのスイッチを入れて、日ごろの積み上げを行うことが大切であると理解できたと思います。

つぎに4年生は進路の準備をはじめの時期になりました。インターンシップの参加とその報告会が行われました。10月には株式会社タミヤ、ヤマハ発動機株式会社、新日鐵住金株式会社、中部国際空港、リニア・鉄道館、オーエスジー株式会社、NTN株式会社を見学しました。工場等の見学の後に本校の卒業生からの説明や質疑応答が活発に行われ、生産現場の状況や先輩諸氏の活躍を知るよい機会となったと思います。12月には5名の卒業生を講師として招き、就職懇談会を開催しました。Meiji

Seika ファルマ株式会社、三菱重工航空エンジン株式会社、株式会社明電舎、東芝機械株式会社、株式会社牧野フライス製作所から、昭和52年度卒業の企業経験が豊かな方から、平成26年度卒業のフレッシュマンの方を派遣いただきました。企業における仕事や就職に対する心構え、学生時代にやっておくと良いことなどについて説明いただきました。先輩の方々のお話を進路の検討に役立てていただけるものと思います。進路について調査・検討して、ご家庭においてよく相談し、意思決定をしてください。

(一社)日本機械学会東海支部学生会主催の見学会に機械工学科5年生全員が参加しました。この見学会は横浜ゴム株式会社三島工場において実施されました。乗用車用タイヤと小型トラック用タイヤの製造工程を見学しました。タイヤ製造過程は材料の混合、加工、成形、加硫および検査の工程からなることを学びました。製造現場や製品を見学して、学校での学習内容と産業界とのつながりを理解すること、新たな技術や活動に触れることができ、技術者を目指す学生に資する会になりました。また例年、日本機械学会は畠山賞を卒業生に授与しており、本年度も学業成績と人格が優秀な機械工学科の学生1名を推薦しています。2月から3月にかけて5年生は、学年末試験に合格すること、実技科目の課題を完成すること、卒業論文を仕上げ研究発表することが求められます。十分実力を発揮して成果を得て、計画した将来に進み、それぞれの分野で活躍されることを期待しています。

機械工学科教員一同は学生の資質向上と将来への道づくりに全力で取り組みますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成27年度を振り返って

電気電子工学科長
佐藤 憲 史

日頃より、電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。電気電子工学科では、電力など社会の基盤となる分野をはじめ幅広い産業分野で活躍できる技術者の育成に努めています。また、地球温暖化問題など世界的な視野に立った科学技術の発展に貢献できる人材育成を目指しています。5年間の高専教育によって、その後の進路が大きく開かれるよう精励しているところです。一方で、数学や物理といった基礎の修得が不十分で一部進級が滞るという現実があります。そのような問題に対処すべく、低学年の学力を確かなも

のにする教科内容の見直しや学習支援活動の強化を推進しています。

今年度の電気電子工学科の進路状況について、簡単に記させていただきます。本科5年生は38名おりますが、就職希望者が13名、進学希望者が25名でした。就職について、求人票を受け取った企業数は690社に上り146社からご訪問いただきました。これは昨年度よりも増加しており、企業の採用状況が順調に推移していることが窺えます。このような中、就職希望者全員が内定をいただきました。就職予定の企業は、電力などの強電関係ははじめ、製薬、食品関係含め広範囲にわたっています。進学では、全員が行先を決めています。進学校は、東工大などの有名大学はじめ、全国の大学と沼津高専・専攻科です。平成27年度から就職における企業の採用活動が8月解禁となり少々混乱がありましたが、平成28年度には再度見直されるようです。現4年生を中心にして、進路に関する指導を徹底し準備しているところです。

5年生を中心として活動している学科プロジェクト (Vehicle Project) では、キャタピラーを用いた電気自動車を製作し、高専祭で試走会を実施しました。体験入学などの行事や学科パンフレットなど、学科のホームページ (<http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/>) で紹介していますのでご覧ください。

以上、今年度を振り返って簡単に学科の概要を述べま



平成27年度を振り返って

電子制御工学科長
遠山 和之

日頃より、電子制御工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。11月に開催した学科説明会には、多数の保護者の皆様にご出席いただき、ありがとうございました。学科説明会後に皆様にご記入いただいたアンケートの集計結果は、学科内で情報共有し、学生指導に反映させていきます。アンケートでは成績や授業に関するご意見が多く寄せられました。昨年11月下旬に、主に数学や物理等の基礎科目の学力の底上げを図る目的で、講義形式で学習できる「礎塾」と自学自習コーナーの「Fuji Café」で構成される「学習サポートセンター」が設置されています。学科では、学生スタッフにD5学生が主体的に関わっていますので、低学年の学生には、このセンターの利用を促していく方針です。

静岡新聞平成28年1月5日(火)朝刊に電子制御工学科5年生の神間峻介さんの投稿が掲載されました。「夢を追い掛ける研究者が増えたら」という梶田さんのノーベル賞に関連した投稿です。本校ホームページでもこの記事トップページにあるトピックスで閲覧できますので、ご一読いただければと思います。

今年度の卒業生の進路は、卒業予定者41名のうち、大学進学6名(東京工業大学、豊橋技術科学大学、北海道大学、横浜国立大学)、沼津高専専攻科13名、就職20名(スター精密、シチズン電子、三浦工業、国立印刷局、オ

した。中学生に有望な進路先として周知されるよう沼津高専をアピールすべく、いろいろな活動を通して高専の魅力を発信しています。周囲の方々に高専の特徴や進路状況などお話しいただければ幸いです。電気電子工学科の教育・研究の充実と発展を目指して、教員一同全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

ムロンフィールドエンジニアリング、ANAラインメンテナンステクニクス、LIXIL、浜松ホトニクス、JR東海、THKインテックス、アステック、セイコーエプソン、東芝キャリア、伊豆急行、天間特種製紙、第一精工、矢崎総業、ヤマハモーターエンジニアリング、プラモ)、進学希望2名です。また、D科出身の専攻科生の大学院進学は、5名(東北大学1名、奈良先端科学技術大学院大学1名、横浜国立大学1名、東京医科歯科大学1名、首都大学東京1名)です。

4月1日付で公益財団法人環境科学技術研究所から鈴木静男准教授をお迎えしています。鈴木先生のご専門は、「陸上生態系(森林、湿地、水田、畑地及び牧草地)の炭素動態を予測する数値シミュレーションモデルの作成」で、本学が進める学際教育の1つである環境エネルギー工学に関連した分野でご活躍の先生です。

大沼准教授が在外研究で4月～6月の3か月間豊橋技術科学大学、7月～12月の6か月間ニューヨーク市立大学クィーンズ校、年明け1月中旬～3月上旬の約2か月間豊橋技術科学大学マレーシア海外拠点(ペナン校)を中心に数か所の大学で英語によるアクティブラーニング授業の研修を受けています。電子制御工学科の公式ブログ内に“Letter from New York”というタイトルで大沼先生から寄せられた近況報告が掲載されていますので、是非ご一読いただければと思います。なお、この大沼先生が7月1日付で准教授に、小谷先生が10月1日付で准教授にそれぞれ昇格し、教授5名、准教授4名、講師1名、助教1名という構成になりました。今後も電子制御工学科の教育と研究を充実させるため、教員一同全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成27年度を振り返って

制御情報工学科長
藤尾 三紀夫

学科長として2年目を迎え、ようやく学科運営に慣れてまいりました。そして、皆様のご支援とご協力を賜ることで、学年末を迎えることができました。改めてお礼申し上げますと共に、深く感謝申し上げます。まだまだ

到らない点が多々あるとは思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、この紙面をお借りして制御情報工学科の平成27年度を振り返ってみたいと思います。まずは卒業予定者33名の進路についてです。本年度から就職活動時期が遅くなり心配していましたが、10月初旬には希望者8名の全員が内定を獲得しました。就職は学力より人間力が問われますので、学生諸君には意識して、今から準備を始めて欲しいと思います。進学に関しては進学希望者24名が国立大学または専攻科の合格を勝ち取りました。教育学部などは編入試験が11月と遅いため気をもんでいまし

たが、全員が無事合格しました。一方、やりたい夢に向かうため、分野を変えて大学受験をし直す学生が1名おります。学生諸君が将来を熟慮して選んだ道ですので、各々の道に向かって頑張っていて欲しいと願っております。

学科イベントとして、11月に学科説明会を開催させて頂きました。116名という多くの保護者の方にご参加頂き、お礼申し上げます。学科紹介から進路の報告、そして現役学生の活動報告も聞いて頂きました。また、学科で力を入れている科目である創造設計の成果物も披露させて頂き、学生の様子もお伝えできたかと思います。あわせて12月には、3・4年の学生諸君を対象に就職懇談会を開催し、5年生からリアルな体験談を披露して貰いました。同時に様々な経歴を持つOBの6名に来学頂き、

仕事内容や今何をすべきかを学生に話してもらい、学生諸君の将来を考える切っ掛けとなったと思います。さらに今年は、4年生の池神君(リーダー)、桑原君をメンバーとするチームが「全国高専デザコン・AM部門(フライングプレーン)」に参加し、見事に全国優勝を成し遂げました。勉強だけでなく様々な事に挑戦する学生諸君の姿をみると、確実に実力を付けており、たのもしく、そしてうれしく感じています。

このような学生を育てるため、これからも制御情報工学科スタッフ一同、研鑽を積み、「学生の夢の実現」の支援に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後ともご支援、ご鞭撻を頂けますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



今年度を振り返って

物質工学科長
後藤孝信

平成27年度も物質工学科の教育・研究にご支援をいただき、保護者の皆様を始め、関係各位に厚く御礼申し上げます。お陰様で今年度を無事に終えることができました。

4月に物質工学科への入学生42名を新たに迎え、2年生は転科生を含めた44名、3年生は編入学生と留学生を加えた49名、4年生も編入学生を加えた47名、そして5年生は39名の大所帯で今年度スタートしました。混合学級のため、1年生は物質工学科の専門科目を少し物足りなく感じたかもしれません。しかし、2年生からは学科毎のクラス編成となり専門科目が増えますので、進級の際には心を新たに入学時の気持ちで授業に臨んで欲しいと思います。

1年生は4月に御殿場合宿研修、2年生は10月に東海大学海洋学部博物館とグランシップでの観劇の研修旅行、3年生は1月にスキー合宿研修、4年生は10月に東海・関西方面の工場見学と、それぞれの学年で行事がありました。これらの研修や見学で得られたことを糧とし、学生個々が一人前の技術者となる力を身に付けて卒業していくことを物質工学科の教職員は切に願っています。

5年生については、進路をご報告させていただきます。

本年度の就職希望者は17名(女子は10名)、進学希望者は22名(女子は5名)でした。就職については、企業の選考活動開始が8月以降になったため、内定先の確保にかなりの困難が予想されましたが、高専OBの方々の力量が高く評価されていることもあり、8月中にほとんどの学生が内定を勝ち取ることができました。特に女子においては、全員が第一希望の企業から内定をいただいております。一方、進学においても、大学における本校卒業生の評価は高いことから、希望者の全員が大学進学を決めています。このように進路先の確保を大事無く終えたことは、大変有難いことと感じております。これも学生達の努力に加え、保護者の皆様とOB諸氏の支えがあつての実績と心より感謝しております。しかしながら、“世界の工場”と呼ばれている中国の景気が減速する世界情勢を考慮すると、今後の就職活動を楽観視できません。現状に慢心することなく、物質工学科のさらなる発展を教職員一同で築いて参りたいと思います。保護者の皆様におかれましては、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、学科教員の移動について報告します。今年度をもちまして、長い間、物質工学科の発展に多大なご尽力をいただきました蓮實先生と押川先生が退職されます。物質工学科一同、両先生に感謝申し上げますと同時に、今後益々のご活躍を祈念致します。また3月末には、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校に1年間研究出張されていた藁科先生が戻って参ります。気持ちを新たに新年度を迎えたいと思います。



今だからこそ身に 着きたい二つの「力」

教養科長・学習サポートセンター長
勝山智男

いま、私たちは先の読めない変化の速い時代を生きています。最先端だと思われた技術も、ちょっと年月が経てば「古い」と言われてしまいますので、技術者は、常に新たな技術開発を求められます。このような時代に技術者として世に出てゆく学生諸君に、ぜひ身に付けてほしい二つの「力」があります。「基礎力」と「知恵」です。「基礎力」とは、新しいことを理解するための力の

ことで、決して数学や物理の内容を言っているのではありません。今まで知らなかった、ちょっと難しい内容の本を読むことを考えてみてください。このとき、私たちは、書かれていることを筋道立てて整理し、自分の言葉に置き換えて理解しようとします（場合によっては無意識にそうしています）。この、整理して再構築する力が、新しいことを理解するのに必要なのです。これは、丸暗記することとは全く違う作業です。整理と再構築のためには基礎的な知識も必要なので、この力をあえて「基礎力」と書きましたが、必要なのは知識だけではなく、論理や構成力なども磨かないといけません。

「基礎力」を身に着けるのに一番良い方法は、本で読んだり人から聞いたりしたことを、別の人に教えることです。そういう意味で、学校内で一番効率的に勉強しているのは教師だと言えるでしょう（申し訳ない…）。ところで、最近アクティブラーニングといって、学生に自ら考えて説明する機会を与えるような授業が流行ってきています。時間的制約もあり、授業ではアクティブラーニングばかりやっているわけにはいきませんが、授業時間外に互いに教えあうのは、皆さんが考えている以上に力がつくのです。ひとりで机に向かっているばかりが勉強ではありません。

二つ目は「知恵」です。辞書によれば、様々な状況に応じて、知識を適切に使い、対処することができる力を「知恵」というのだそうです。先の読めない時代に、まさに必要な力です。では、「知恵」を身につけるにはどうしたらよいか。どうやら経験は役立ちそうです。「先人の知恵」などと言いますが、昔からの経験の積み重ねは、優れた「知恵」の宝庫です。学生時代は限られた年月しかありませんから、たくさんの経験を積むには、失敗を繰り返すのが良さそうです。成功したら一度しかトライできませんが、失敗すれば何度もトライできます。実験担当の先生には怒られそうですが、学生実験は失敗するに限る。ただし、失敗から学ばないとダメです。同じ失敗を繰り返すようだと、それこそ担当の先生からこっぴどく叱られます。

それでも、自ら経験できることは限られています。人の経験もわがものにしてしまいましょう。読書をするのです。本の中には（本にもよりますが）多くの先人の経験がぎっしりと詰まっています。自分で経験するのは比喩物にならないくらい薄っぺらな「経験」ではありませんが、数で勝負です。読書は、「知恵」を育む以外にも、先に書いた「基礎力」を身に着けるのにも役立ちますので、若いうちはせっせと本を読んでください。

ここ数年、単位を取れなかったり、留年してしまったりする学生が目立って増えてきました。学業で失敗しても、それを乗り越えて立ち直り、「知恵」をつければ問題はないのですが、学生実験を失敗してやり直すのとはわけが違い、単位を取り直したり、留年したりするのは、大変な気力と労力を要し、それに保護者の方など周囲へ迷惑をかけることとなりますので、こちらは決してお勧めできません。そこで、沼津高専では、平成27年度から学習サポートセンターを設立し、勉強に躓いたり、学習方法で悩んだり、授業でわからないことがあったりする、いわゆる勉強に困っている学生への支援を組織的に行うことになりました。図書館1Fロビーの一角に机といすを並べて、勉強コーナーとして開放し、Fuji Caféと名付けました。ここでは、お茶を飲みながら気軽に勉強を教えあったり、教師に質問したりできます。また、1、2年の数学の授業の進行に合わせたドリル問題を常備して、自学自習できるようにしました。Fuji Caféに隣接した小教室（共通2教室）では、補講や授業形式の勉強会などを行います。こちらは礎塾と名付けました。「礎」は校歌の一節からとったのですが、基礎をしっかり学ぼう（「基礎力」をつけよう!）、という意味も込められています。Fuji Caféと礎塾、この二つを、沼津高専での学びにぜひ生かしてください。

最後になりましたが、平成27年度を以て、教養科数学担当の待田芳徳教員と国語担当の中園孝信教員が再任用期間を終了し退職いたします。この場をお借りしてご報告させていただきます。

国際交流室から



今年度の学生の海外研修 と将来の展望

国際交流室長

鈴木 久博

グローバル化した社会に生きる将来の技術者には、十分な知識や技術のみならず、幅広いものの見方や考え方、そしてコミュニケーション能力を備えていることが願わ

れています。そのような技術者を目指して、今年度も様々な海外研修に学生の皆さんが参加しました。

まず、8月には専攻科1年生が、高専機構主催の国際シンポジウムISTSに参加しました。これは、高専機構が海外の包括交流協定校と共催して、高専生、特に専攻科生に海外で英語による研究成果を発表する機会を提供するもので、今年度で5回目です。今年度はマレーシアのマラ工科大学で開催されました。8月にはまた、シンガポールのポリテクニクが高専生向けに準備した2週間の英語キャンプ（熊本高専主催）に4年生1名が参加し

ています。

9月上旬から中旬にかけての2週間は、例年通り米国シアトルでの異文化体験&語学研修を実施し、本科2年生から4年生あわせて14名が参加しました。ふだん日本では英語を使う機会がない中、現地で実際に英語で自分の言いたいことを言い、相手の話すことを聞きとるといった実践的な訓練ができたものと思います。また現地でアメリカ文化にふれて、日本人の価値観を見直すよききっかけともなったようです。

今後は、学生の皆さんが海外に行き、異文化を体験するとともに英語でのコミュニケーション能力を身につけることがさらに望まれます。それをうけて、今年度は文科省が民間企業と協働で実施している留学支援プロジェクト「トビタテ！留学JAPAN」の大学生コース、高校生コースそれぞれについて、学内説明会を実施し、いづれ

も10名ほどの学生の皆さんが参加しました。今後もこのプロジェクトについては引き続き紹介してゆきたいと思えます。

また、海外の大学と本校独自に協定を締結することも前向きに検討し、韓国の工科大学との調印に至りました。今後は先方から学生を受け入れると同時に、本校学生を先方に派遣する道も開かれます。

近年は円安の影響もあり、海外に行くには費用がかかります。しかし、幸いなことに燃油サーチャージは下がっていますし、また4年前、本校50周年を機に設立した国際交流基金もあり、わずかながらですが、学校のプログラムを通して海外に出る場合には援助を受けられます。若いうちに学生の皆さんが海外生活を経験し、グローバル人材としての基礎を築くことを願っています。

平成27年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成27年7月1日	宮内 太積	教授（機械工学科）に昇任	准教授（機械工学科）
	西村 賢治	教授（電気電子工学科）に昇任	准教授（電気電子工学科）
	大川 政志	教授（物質工学科）に昇任	准教授（物質工学科）
	小柳 敦史	准教授（教養科）に昇任	講師（教養科）
	松田 伸也	准教授（機械工学科）に昇任	講師（機械工学科）
	大澤 友克	准教授（電気電子工学科）に昇任	講師（電気電子工学科）
	大沼 巧	准教授（電子制御工学科）に昇任	講師（電子制御工学科）
	山崎 悟史	准教授（制御情報工学科）に昇任	講師（制御情報工学科）
	横山 直幸	講師（制御情報工学科）に昇任	助教（制御情報工学科）
平成27年10月1日	小谷 進	准教授（電子制御工学科）に昇任	講師（電子制御工学科）



部 活 動

第50回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
卓 球	男子シングルス	予選リーグ敗退	C 4	桑原 康介	
	男子ダブルス	3位決定 トーナメント1回戦敗退	C 4 1-3	桑原 康介 平 沢 朋 幹	
水 泳	女子50m背泳ぎ	8位	C 2	渡辺 麻彩	
	男子800m自由型	18位	1-1	川口 大和	

第53回東海地区国立高等専門学校体育大会 (入賞者・入賞団体)

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸 上	男子4×100m	第3位	S 2 D 2 1-5 1-2	藤川 泰佑 田中 健太 伊藤 竜海 和田 憲親	
	男子3000mSC	第3位	C 2	鈴木 龍一	
	男子400mH	第3位	S 2	藤川 泰佑	
テ ニ ス	女子団体の部	準優勝	—	—	
	女子シングルス	準優勝	C 2	伊藤 優月	
	女子ダブルス	準優勝	C 2 E 3	伊藤 優月 上 柳 舞弓花	
ソフトテニス	男子団体の部	準優勝	—	—	
空 手 道	個人組手の部	準優勝	C 2	大浴 康太郎	
バレーボール	女子の部	準優勝	—	—	
剣 道	男子団体	準優勝	—	—	
卓 球	男子シングルス	優 勝	C 4	桑原 康介	
	男子ダブルス	優 勝	C 4 1-3	桑原 康介 平 沢 朋 幹	
	女子団体	準優勝	—	—	
	女子シングルス	準優勝	C 4	村松 歩香	
	女子ダブルス	準優勝	C 4 E 4	村松 歩香 本 多 由 佳	
水 泳	女子50m背泳ぎ	優 勝	C 2	渡辺 麻彩	
	男子800m自由形	準優勝	1-1	川口 大和	
	女子100m平泳ぎ	準優勝	C 2	渡辺 麻彩	

全国大会出場報告

結果がすべて

卓球部 物質工学科4年
桑原 康介

今年度の全国高専大会卓球競技では男子シングルス・男子ダブルスの2種目に出場の権利を得ることができ、僕自身は今年度で3回目の全国大会出場となりました。全国大会は各地区の強豪が集まり、初戦からとても厳しい試合でした。結果はシングルスで予選敗退、ダブルスで予選2位通過、決勝トーナメント初戦敗退でした。3回目の全国大会ともなれば緊張することこそありませんでしたが、自分の理想の卓球をすることはできませんでした。格上の選手が相手になると相手のペースにのまれてしまい、何もできずに負けてしまうこともありました。とても悔しい気持ちでしたが、それ以上に自分の未熟さを痛感しました。さらなる技術の向上を目指していこうと思ったときもありましたが、来年度の高専大会は私事のために出場することができないので、せめて後輩の技術向上のサポート役として務めていければと思っています

初めての全国大会

水泳部 電子制御工学科1年
川口 大和

今年度、私は東海地区高専大会で2位入賞することができ、8月末に鹿児島県で開催された全国高等専門学校体育大会に出場してきました。

東海地区大会の時、周りには20歳までの選手がいて最大5歳も年齢差がある状況でした。それでも私は全国大会を目標に、初めての高専大会に挑戦しました。出場した種目は800m自由形と200m背泳ぎです。そのうち200m背泳ぎは決勝までは進んだものの全国大会は逃してしまいました。

もうひとつの800m自由形では距離が長いので決勝が無く、出場した選手の予選のタイムで成績が決まります。3組ある中2組目で私が泳いだ時点で私の順位は2位でした。上位2名が全国大会に出場できるため、残りの3組目で速い人がいると全国大会はあきらめなくてははいけません。他の高専の人でも応援したい気持ちがあったため、3組目で泳いでいる選手を何とも言えない思いで見っていました。結局2位のまま全国大会に出場する権利を得ることができましたが、嬉しさのほかに他の選手の気持ちも引き継いで頑張ろうという気持ちになりました。

そして大会当日。前日に新幹線で7時間近くかけて鹿

す。来年度は出場しない身ではありますが、部員には東海地区高専大会では団体戦、シングルス、ダブルスで男女とも全て優勝、全国高専大会では入賞を目標にして技術向上に励んでほしいと思います。沼津高専卓球部の部員は練習時間が十分に得られない中でも、自分でやるべきことを考え、実行する素晴らしい選手です。そんな部員だからこそ、私は来年度の高専大会に期待をもつことができます。しかし、部員に足りないものがあるならば、それは結果を大事にする気持ちだと思います。努力がすべて結果につながるわけではないことは、スポーツマンであれば身をもって知っているはずですが。結果が得られなければ、努力が足りなかったのかと考えてしまう。このようなネガティブな思考では一生勝つことはできません。結果を出すことを第一に考えることで、おのずと結果が出てくるのではないのでしょうか。そもそも、努力で語ろうとする選手は2流3流の選手であり、恥ずべきことであると思います。「努力した量ではなく、結果で競争してほしい」というのが部員に対する私の想いです。

最後に、東海地区高専大会を本校で開催するにあたって多くの方々にご協力いただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。そして、これからも卓球部の応援のほど、どうぞよろしくをお願いします。

児島まで来たための疲労のせいか調子はあまりよくありませんでしたが、気合を入れて大会に臨みました。全国大会なので選手全員がそれぞれの地方で優勝、準優勝してきたということでその場の空気は東海大会とは違い、少しピリピリしていました。そんな空気にもまれなように気をつけ、私は全国大会に挑戦しました。結果はあまり良くなかったですが、泳いでいた10分間はとても楽しかったです。いろいろな人が応援してくれていることで安心でき、緊張することなく泳ぐことができました。初めての高専大会は結果こそ良くなかったものの、とても充実した思い出になりました。また、全国大会に東海地区の代表として出場するという事の重みを経験できたため、得るものがありました。

このような経験をすることができたのはたくさんの方々の協力があったからです。普段から一緒に楽しく部活をやってくれた水泳部1年生の4人、そして先輩方。指導して下さった先生方など、たくさんの人に感謝です。ありがとうございました。また全国大会に出場するのを目標に、これからも仲間と協力しながら部活動をやっていきたいと思っています。



行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

平成27年度体育祭における 新しい試み

体育祭実行委員長 機械工学科3年
坂 寄 裕 二

みなさん、こんにちは。平成27年度に体育祭実行委員長を務めた坂寄裕二です。私は1年時からの3年間、体育祭実行委員を務めて来ました。そしてこの場をお借りして、自分が今年度の体育祭実行委員長を務めて改善できた点と反省すべき点について書きたいと思います。

私が体育祭実行委員長として大きく改善した点は各種目においてのチーム制限を無くし、各クラスが参加を希望する種目に必ず参加出来るようにしたことです。今までは1クラスがフットサル、ソフトボール、ハンドボール、バスケットボール、バレーボールの5種目の中から3種目を決め、全クラスの参加希望種目を集計します。そして、不幸にも参加制限を超えてしまった種目を希望したクラスはじゃんけんを行い、じゃんけんに負けたクラスは参加希望数の少ない種目に変更させられていました。私はやはりクラスで希望した種目を行えないと体育祭そのものがつまらなくなり、不満を持つ人がいるのではないかと感じていました。そのため、私は今回新しい



試みとして、各種目の参加制限を無くし、不満を持つ人が出来る限り少なくなるように配慮しました。当初、参加クラスの多い種目が終わるまでの時間が長く掛かってしまうという不安もありました。しかし、決してそのようなことはなかったため、参加制限を無くしたことは正解だったと感じています。そのため来年度も引き続き、希望種目を優先する方針を続けていくべきであると思っています。

また、反省点としては同じ時間帯に複数の参加種目が重なってしまったことです。体育祭実行委員は1、2回戦目で参加種目が重ならないようにトーナメント表を作りました。しかし、1クラスが2種目や3種目も勝ち進んでいくと、決勝や準決勝で複数の種目が重なってしまい、時間をずらさなければならないことがありました。私は来年度以降、これ等の点を考慮し、準決勝位まで勝ち進んだクラスが出来るだけ種目が重ならないように計画し、より良い体育祭にしていきたいと思っています。



高 専 祭

第50回 “星”

高専祭実行委員長 電子制御工学科5年
神 間 峻 介

第50回高専祭実行委員長を務めさせていただきました、電子制御工学科5年、神間峻介です。沼津高専創立50周年を迎えてから3年、高専祭も今回で第50回を迎えることができました。このような記念すべき高専祭の実行委員長を務めることが出来たことを本当にうれしく思うと同時に大きな責任を感じていました。

今年の高専祭のテーマは「星」です。このテーマには私たち実行委員会の、学生一人一人が個性を發揮し輝いてほしい。そして、その光が集まり、学校だけでなく、地域を巻き込んだ魅力ある高専祭になってほしいという想いが込められています。そのために、学生一人一人に高専祭をもっと楽しんでもらい、思い出に残るものにしたと考えていました。そこで、形にも記憶にも残る全体写真を撮ること、高専祭の企画を知ってもらい、参加してもらうことの2つを中心に準備を進めてきました。

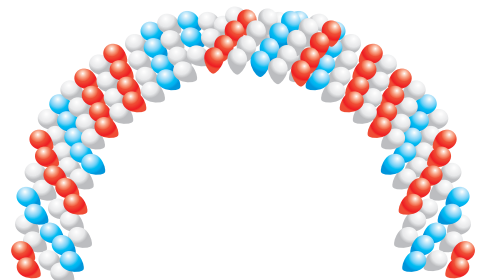
全体写真では、今までにない挑戦をすることができました。全体写真の撮影は何度か行ってきましたが、今回は副実行委員長の杉山君の提案により、学生一人一人に画用紙を持ってもらい、色をつけることにしました。初めての試みだったので、参加して下さった皆さんにはご迷惑をおかけしましたが、おかげで今までにない全体写真を撮ることが出来ました。

また、昨年度から長泉町役場の方と合同で地域発信ブースを出展していましたが、

今年から沼津市、三島市の方々を加え、2市1町の地域のブースを出展していただきました。学生にとっては身近な地域のことを知るきっかけに、地域の方にとっては学校のことを知ってもらうきっかけになったのではないのでしょうか。

私がスタッフ活動に参加したきっかけは当時の実行委員長でした(4歳年上)。このように、高専祭スタッフ活動は、寮生活や学生生活では関わることのできない、多くの人と一緒に活動できます。それだけ、様々な経験を積むことができるということです。これは、コミュニケーション力、責任感、協調性など今後の生活に役立つ力を培うことになります。ですので、今年活動に参加できなかった学生もぜひ来年は参加し、自己のスキルアップと共に、より良い高専祭を目指してほしいです。

最後になりますが、高専祭を開催するにあたり、ご協力いただきました教職員のみなさま、近隣のみなさま、そしてスタッフ活動に参加してくれたみなさん、ありがとうございました。私は、残る実行委員長の仕事である来年度への引継ぎをしっかりと、来年度以降も魅力ある高専祭を作っていってほしいと思います。



3年スキー合宿

天候に恵まれた3年生 スキー合宿研修

3学年合宿研修担当 鈴木尚人

3年生の年間行事の中で最大の行事の一つであるスキー合宿研修が平成28年1月21日、22日に開催されました。私は平成27年度の3年学年代表を務めました機械工学科の鈴木尚人です。スキー合宿研修についてご報告致します。参加者は学生205名、引率者14名でした。スキー場は昨年と同様にふじてんスノーリゾート（山梨県南都留郡）を使用しました。このスキー場は沼津高専からバスで2時間以内に到着でき、初心者～上級者までの様々なコースがあります。スキー研修は学生の皆さんが男女別に初心、初級、中級、上級の班に分かれ、経験豊富なインストラクターの指導によりスキーの技術を学ぶことが出来ます。今年の冬は暖冬であり、積雪量が大変心配されました。しかし、1月中の降雪により、90cmを記録し、問題なくスキーをすることが出来ました。合宿中の天候は全体的に晴天となり、大変素晴らしい環境でスキーを楽しむことが出来ました。多くの学生の皆さんは初め不慣れたブーツを履き、長いスキー板に戸惑っていました。

ロボットコンテスト2015

No Creative, No Change ～ロボコン部の挑戦～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度もアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）、東海北陸地区大会が10月4日(日)にプラサヴェルデ（静岡県沼津市）にて開催されました。今年度は本校が主幹校となり、会場設営、リハーサル、本番と多くの教職員・学生の協力のもと大会に臨みました。

第28回の競技課題は、「輪花繚乱（わっかりょうらん）」。ロボットによる「輪投げ合戦」です。競技は、赤・青2チームに分かれて対戦形式となり、各チーム1台のロボットと3人の高専生が戦いました。輪の大きさを自由に決め、太さや高さの異なる様々なポールに輪を投げ入れ、相手より先に9本全てのポールに輪を投げ入れたチームが勝利となります。

沼津高専からはAチーム「桜乱吹雪（サクラフブキ）」、Bチーム「やぶさめちゃん（ヤブサメちゃん）」の2チームが出場しました。部長S3関君のもと、Aチームリー

そして、終始、腰が引けている学生も多く見られました。しかし、インストラクターの指導で徐々に上達していきました。インストラクターと共に、リフトに乗り、頂上から麓までスキーで滑って降りられるまでになりました。さて、宿泊施設はスキー場の近隣にある富士緑の休暇村です。このホテルは大勢の学生が泊まるために必要な対応がきちんとしています。食物アレルギーのある学生には代替りの食事を提供して頂きました。多くの学生は夕食時にもっといっぱい滑りたいと話をしていました。スキーに慣れてきたようです。また、このスキー合宿研修はスキーの他に、もう一つ重要な行事があります。それはVPI職業興味検査です。この検査は学生の皆さんの卒業後の目標を見つけることに役立つものです。合宿のような普段と異なる環境で行うと良いとされています。興味を持っている職業の分野や心理的傾向を調べることが出来、興味のある職業名を導き出すことが出来ます。将来の進路について考える良い機会になったと思われま

す。今年度のスキー合宿研修は天候に恵まれ、交通事故や大きな怪我も無く、終了することが出来ました。これも、保護者の皆様が学生を暖かく見守り、送り出してくれたお陰であります。また、私達、引率の教職員一同も、長い期間をかけて準備して来た甲斐があり、ただ安堵しております。

ダーD3加藤君、BチームリーダーC2伊藤君を中心として総勢41名の部員たちが一致団結して大会に臨みました。今年度は取材も多く受け、NHK静岡「たっぷり静岡」にて沼津高専ロボコン部が取材を受けた内容が放送されました。主幹校として、地元開催として、多くの声援をいただき、大会に臨みましたが、結果として、Aチーム、Bチームともに1回戦敗退となりました。Aチームについては、人の腕で輪投げをするように人工筋肉を用いて輪を投げる構造はいいアイデアでしたが、アイデアを精度よく実現する点に力不足が目立った結果となりました。Bチームについては、全20チーム中唯一の2足歩行ロボットと、製作者のこだわりが溢れるマシンでしたが、最終調整で苦戦し、きちんとした歩行を魅せることができませんでした。ただ、そのチャレンジ精神を評価していただき、特別賞（田中貴金属グループ）をいただくことができました。

全国への道のりはいまだ遠く、皆様のご期待に応えきれていない現状が続いています。部員たちも悔しい気持ちいっぱいですがすぐにミーティングを行い、次年度に向けたテーマを「No Creative, No Change」としました。勝ちに行くロボットを創るチームに変わりたい。そのためには戦略面、技術面も含めてもう一歩成長したい、そういう思いが込められています。今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いたします。

経験から成長する

ロボコン部部长 制御情報工学科3年
関 優 志

昨年度、私はBチームのチームリーダーとして高専ロボコンに出場しました。その時に見えてきた問題点の一つがロボットの完成時期が遅かったことでした。そのため、本番同様の練習期間をほとんど確保できないまま大会に臨むことになりました。当然のことながら実力を発揮し課題をクリアすることができず、とても悔しい思いをしました。そこから私は、ロボットの完成時期を早くすることの重要性を学びました。

今年度も4月下旬にルールが発表され、アイデア出しからロボット製作が始まりました。今回は部長として部全体をまとめる立場で携わり、ロボットの完成時期をより早くすることを目標の一つにしてみました。具体的な改善点として、スケジュールの担当者(マネージャー)を設けて作業の進捗をチームで共有したり、頻繁に確認したりするように心がけました。その効果もあり、Aチームのロボットの完成時期は昨年度より約2週間早まり、体育館での操縦練習を含め、改良したり、作戦を練った

りするなど、決して満足ではありませんが目標は達成できました。

しかし、大会当日に私は会場裏のピット(ロボットの待機場所)で新たな問題点を目の当たりにしました。それは沼津が“アイデア”で負けていることでした。他高専のロボットと比べると、“勝てる仕様”のマシンではありませんでした。この時、私は自分たちが本当に重視すべきことは、早く完成させることはもとより、“勝てるアイデアを実現させること”であると気づきました。

結果は、Bチームが難しい歩行機構への挑戦が評価され、特別賞を受賞したものの、残念ながらAチーム・Bチーム共に初戦敗退となりました。この事実はとても悔しかったのですが、“勝てるアイデアを実現する”という新たな目標ができたことはロボコン部にとって大きな進歩だと考えています。今大会の経験を活かすべく、大会終了後には現状の問題点を話し合いました。それをもとに、アイデア出しの方法の改善に取り組んだり、練習を行ったりしています。例年以上に部活は次年度大会に向けて大きく動き出しています。

学んだことをどうやって次に活かしていくか—今年度も全国大会に進むことはできませんでしたが、ロボコン部の成長を日々実感しています。これからもロボコン部一同、全国大会出場を目指し全力で活動していきます。

東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト

Acceptance

機械工学科4年 茶 田 智 来

私は昨年11月に鈴鹿高専で行われた第9回東海北陸地区高専英語スピーチコンテストに出場し3位に入賞しました。ここにその経緯を記します。

私がスピーチコンテスト出場を決意した理由は単純でした。昨年度の雪辱を果たしたかったからです。今度こそ入賞して全国の舞台に立ちたい。私はやる気に満ち溢れていました。しかし肝心の題材がなかなか決まりませんでした。当初は寮生活で学んだことについて語る予定でしたが寮内で相次いだトラブルに頭を抱え別の題材を探すことにしました。ところが代わりのテーマを見つけることはできず見通しが全く立たないまま夏休みに突入してしまいました。その一方でもう一人の出場者である青木君はすでに英語原稿の作成に取り掛かっていました。私は焦燥感にかられました。しかしいくら考えても題材は見つかりません。もういいやこんなことやっても時間の無駄だ。私はスピーチコンテスト出場断念を考え始めていました。

そんなとき私はふと思いました。

今自分はものすごく辛い思いをしているけどそこから

逃げてはいけない。まずはこの状況を受け入れて打開策を探そう。

テーマ探しに必死だった私はこの勢いのまま“Acceptance”(受容)をスピーチのテーマに選ぶことにしました。このテーマで7分もスピーチできるのか不安でしたが先生に助言をいただきながらどうにか原稿を仕上げ練習し本番に臨むことができました。

私はスピーチの中である心理学者の名言を引用しました。

“Accept things as they are. It is the first step to overcome unfortunate incidents.”

「物事があるがままの姿で受け入れよ。起こったことを受け入れることが不幸な結果を克服する第一歩である。」

辛いこと悲しいことがあってもまずはその状況を受け入れることが大切である。私はそう思います。

残念ながら全国大会出場は逃してしまいましたが(全国大会出場権を得るのは1位2位入賞者のみ)立派な盾と賞状を頂くことができとてもよい思い出となりました。

最後に、お忙しい中指導してくださった英語科の先生方や応援してくれた友人たちに感謝の意を表します。ありがとうございました。



スピーチコンテストに向けて

物質工学科4年 青木匠門

1年生のときに1か月間、南米を旅した。なにも目的がないただの旅行である。大学では、こんな感じでぶらっと遊びに行く機会がないと思ったから、高専の長い休みを利用した。この旅行はかけがえのないものになったが、日本に帰ってからは課題や雑務に負われる日々が続き、誰もこの経験を共有できず、記憶の宝箱にひっそりとしまわれた。

4年生になって、また外国へ行きたくなった。来年は受験、その後は大学だから、この年の夏休みが最後の機会かもしれない。今回の旅行では何が経験できるのだろう、どんな景色が見られるのだろうと心が躍り、ふと、南米の旅行がどうだったか気になった。そこで久しぶりに大切に保管された宝物に手をとってみた。

宝物は穴だらけで、思い出せないところがたくさんあった。大切に保管していたはずなのに虫食いだらけで、少し悲しかった。この経験もいずれは忘れて、なかったことになると思うと空しかった。あまり他人にこの経験を話さなかったのが悪かったのかも知れない。

そこでスピーチコンテストでこの旅行のことを話すこ

とにした。多くの人に聞いてもらいたかったし、高専にいる間で何か賞を取りたかった。

スピーチコンテストは内容、発音、ジェスチャーの3つで評価される。僕の経験は内容の点でほぼ満点であったが、発音はとて悪かった。カタカナ発音であった。逆に言えば発音さえどうにかなれば、優勝も可能である。発音の練習に本腰をいれたのが10月のはじめで、そのときまでカタカナ発音のままであった。

発音の練習はとて厳しかった。毎日5時におき、学校に行く前までに原稿を10回読んだ。8時に学校について、先生と発音の練習をした。放課後は市販の発音練習テキストをやり、原稿を20回読んだ。本番では7分以内にスピーチしなければならないが、練習のときは1回読むのに30分以上かかるときもあった。

その甲斐あってか、3位をとることができた。全国大会にはいけなかったが、賞を取れてよかった。ただ、やはり僕の発音は他の人より聞き取りづらく、それが優勝できなかった理由だろうとおもった。僕のスピーチを聞いているときの審査員の微妙な顔が今でも忘れられない。

スピーチコンテストは、自分の経験をさらけ出す場である。もし何か他人に真似出来ない経験があれば、スピーチコンテストで吐き出すのもいいかもしれない。英語だから友人にできない話もできるしね。

全国高専デザインコンペティションデザコン2015

「ささえあい」のデザコン

制御情報工学科4年 池神奈穂美

11月14、15日に和歌山で開催された「全国高専デザインコンペティション デザコン2015 ささえあ」の「AMデザイン部門」に4名でチームを組み参加してきました。AMデザイン部門では、昨年同様「フライング・プレーン」を競技テーマとし、チームで「ささえあい」ながらCADで設計を行った台車とプレーンを3Dプリンターで造形し、飛行距離、飛行時間、プレゼンテーション、ポスターセッションで競い合います。私と専攻科2年の田中さん、教員の藤尾先生は昨年参加したこともあり、他高専の良かった点を取り入れて台車、プレーンの設計を行いました。またこれらの設計に桑原君(S4)と家住君(M4)がアドバイスを加えるという形で設計と改良を進めました。造形したプレーンと台車は組立、実際に飛ばして試行錯誤を重ね、山中先生からハイスピードカメラをお借りし、離陸時の様子の解析を行いました。

大会当日は前日から和歌山入りし、ホテルでプレゼンテーションの作成・見直し・練習を行いました。そして迎えたコンテスト初日はプレゼンテーションとポスター



セッションがありました。私はプレゼンターとして発表を行いました。緊張してしまうと早口になるきらいがある為、ゆっくり話すことと間を設けることを意識しながら発表を行いました。高速度カメラで撮影した離陸時の様子の動画は会場でも目を引いたようです。

この後、与えられた3分間の試技では、台車の車輪がスロープの止めねじに当たってはねてしまい、プレーンが安定して飛ばないことが発覚し、全員の顔が真っ青になりました。慌ててホームセンターへ走り、購入した工具で持参した予備部品の車軸を切り、穴をあけました。その後ホテルに戻り、みんなでヤスリをかけて夜中に台車が完成しました。

大会2日目は試技もなく、いきなり本番でした。メン

バー全員が祈る思いで1回目の競技に臨んだところ、なんと参加チーム唯一測定範囲を超える飛行を実現することができました。また、2回目、3回目も距離は伸びませんでしたでしたが安定した飛行を行えました。

その結果、最優秀賞を受賞しました。メンバー全員が

驚きを隠せませんでした。私自身も去年はあまり良い結果を残せなかったこともあり、とても驚き嬉しく思いました。夏休みから約3か月にわたり放課後と休日を利用して準備を進め、メンバー全員で「ささえあい」、頑張ってきて本当によかったと思いました。

第10回読書感想文コンクール

応募作品 197 点

最優秀賞

・自由図書の部

川端康成氏が小説家として見つめていたもの
——『伊豆の踊子』を読んで
『星の王子さま』を読んで

機械工学科5年 渡部 翔太
1年3組 辻本 隼也

・課題図書の部

『希望の海へ』を読んで

1年1組 浅賀 唯

優秀賞

・自由図書の部

『タイムマシン』を読んで
『ガリレオの苦悩』を読んで
人間という生き物——『いのちの食べ方』を読んで
河童たちの不可思議な国——『河童』を読んで
『火花』を読んで
いまいちと『小説 太宰治』——『小説 太宰治』を読んで
『春のあなぼこ』を読んで
『スイッチを押すとき』を読んで
欲望と道のり——『火花』を読んで
生きる・死ぬということ——『ガンに生かされて』を読んで
『重力ピエロ』を読んで
きりぎりすと太宰治と女性——『きりぎりす』を読んで
家族のかたち——『at Home』を読んで
『下町ロケット』を読んで
『ロボットの天才』を読んで
マララの勇気——『武器よりも一冊の本をください』を読んで
『植物はすごい』を読んで
『ロボットは東大に入れるか』を読んで

1年1組 平野 嵩英
1年1組 三浦 純忠
1年1組 山内 諒聖
1年2組 秋山亜久里
1年2組 大角空ノ輔
1年2組 加藤 英
1年2組 上面 友也
1年2組 鈴木 まや
1年3組 青野 泰己
1年3組 足立颯一郎
1年3組 田中 佑美
1年3組 福崎竜之輔
1年4組 加藤 穂香
1年4組 竹田 義貴
1年4組 中嶋 佑斗
1年4組 山口 立
1年5組 鈴木 理乃
1年5組 山田 晃碩

・課題図書の部

『希望の海へ』を読んで
『希望の海へ』を読んで
野生動物から学べる物理
——『ペンギンが教えてくれた物理のはなし』を読んで
『わたしはマララ』を読んで
『わたしはマララ』を読んで
『わたしはマララ』を読んで

1年1組 野村柚衣子
1年2組 三橋 未来
1年4組 望月 翔太
1年5組 橋本 雄太
1年5組 中村 美月
1年5組 森 彩華

読書感想文に見る発想の豊かさ

図書館長 中 園 孝 信

第10回読書感想文コンクールは197点の応募があった。最優秀賞は3点である。自由図書部では、渡部翔太君(M5)が川端康成の『伊豆の踊子』を読むうえで「重要なのは、いつも目にしているような物を、新鮮に見せる角度、冒険的な視線である。」と感想を綴った。辻本隼也君(1年3組)は『星の王子さま』を小学生以来定期的に読んでいた。「困ったときに読むと、とても多くのヒントを与えてくれる。」と書いた。課題図書部では、浅賀唯さん(1年1組)がイギリスの児童文学作家マイケル・モーバーゴ著『希望の海へ』を読み、「人々を苦しめる戦争は、被害にあい亡くなった人たちのためにも絶対にしてはいけないことだと、この本を読んで強く感じた。」と感想を述べた。

優秀賞は24編だった。応募作品の題目に出てくる単語は、タイムマシン、ガリレオ、星、いのち、希望、火花、春、スイッチ、がん、ロケット、植物、ロボット、物理などが目立った。沼津高専生の興味・関心の向きがこれらの単語からうかがえた。

今年の課題図書は3冊である。1冊は浅賀唯さんが感想文を書いて最優秀賞になった『希望の海へ』である。2冊目は2014年に史上最年少でノーベル平和賞受賞したパキスタンのマララ・ユスフザイさんが書いた『わたしはマララ』である。2012年10月、15歳のマララさんは帰宅途中のスクールバスでタリバンの銃撃を受け重傷を負った。『わたしはマララ』は世界を変えようと願った少女の物語である。3冊目は『ペンギンが教えてくれた物理のななし』である。著者は国立極地研究所に勤めている渡辺佑基氏である。書名から「えっ」と驚く人がいると思うが、生態学と物理学の新しい学問分野の視点から物理メカニズムを読み解く内容である。3冊とも図書館に備えている。図書館に足を運んで手に取ってほしい。

高専生は誰の本を読んでいるか気になる場所である。川端康成、中島敦、H.G.ウェルズ、東野圭吾、芥川龍之介、又吉直樹、檀一雄、森絵都、山田悠介、伊坂幸太郎、高橋智隆、池井戸潤、本田孝好、新井紀子、田中修などである。読書感想文コンクールは友人がどんな本を読んでいるかを知ったり、自分の読書に偏りが無いかを点検したりする機会でもある。専門書ばかり、小説ばかり、雑誌ばかり読んでいては、豊かな人間性は培われない。自分の殻を壊すためあえて課題図書に挑戦するのも一計である。

退職教職員から



「富士山に向かい」

機械工学科

宮内 太 積

学生・保護者・教職員の皆さん、長い間お世話になりました。沼津高専を3月で退職しますので、昭和52年4月に静岡大学から赴任以来39年間勤めたこととなります。

沼津高専は霊峰富士のすそ野近くに位置し、私は伊豆に住まいを構えているため毎朝富士山に向かって通勤していました。帰りは富士山を背に、天城山に向かい家路を急ぐこととなります。富士山・天城山ともに日本百名山ですが、天城山という山はなく天城連峰や天城山系と呼ばれ、万三郎岳・万二郎岳・遠笠山等の総称です。自宅を出るときには雨が降ってなくても沼津に来ると降っていることもあり、またその逆もありで富士山系と天城山系の違いをまざまざと見せつけられました。富士山がどっしりとした日本一の独立峰に対し、天城山系は富士山ほど有名で立派な山ではありませんが、多くのこぢんまりとした山々がスクラムを組んで対峙しているように見えます。

私は静岡県で生まれ育ち仕事をしてきましたが、富士山・天城山系はいつでも登れるという安心感があり赴任するまで富士登山をしたことはありませんでした。県外の旧友らは近くに住んでいて登ったことがないことは考えられないと口々に言っていました。当時の学生に聞いてもその経験がないことを知り卒業するまでは登らせないと思い夏は富士登山を行い、また温かい土地柄で雪を知らない学生がいるとスキーをと考え連れて行ったことなど今では考えられないことができました。当時土曜日は「半どん」で午後の時間を有効に使えた感があり、こぢんまりした高専ならではの学科や職域を超えてのお付き合い、また当時は若かったからだと思います。その後、週休二日制になり、またゆとり教育が始まったころから年を重ねたせいかなこのようなことができなくなりました。今になっては懐かしい思い出です。

還暦を過ぎ、定年が近づいてくるとあちこちガタがきますが無事退職の日を迎えることができそうです。これもひとえに良き学生に恵まれ、立派な保護者皆様方の温かいご支援のおかげと心より感謝いたします。

最後になりますが、皆さんは富士山のように巨大な独立峰になって活躍してもいいですし、天城山系のように多くの人と交わってスクラムを組む人生もいいと思います。私には無理ですが皆さんの中には22世紀を迎えるこ

とができる人も出てくるはずです。今後の沼津高専の発展を心よりお祈り申し上げます。



次世代への橋渡し

物質工学科

押川 達夫

2001年4月に本校物質工学科に着任以降、14年間お世話になりました。この間、保護者の皆様、教職員の皆様のご支援を賜ったこと、深く感謝申し上げます。この14年間を振り返ると激動の時間でしたが、充実した時間でもありました。物質工学科・学科長の任務期間延長終了直後、平成23年度に学際教育担当（校長補佐）を柳下前校長より拝命し、本校の教育カリキュラム改革を実行してきました。平成24年度の入学生より学際教育を導入し、現在に至っているところです。また、平成25年度では校長補佐と教育研究支援センター長を兼務し、同センターの立ち上げに関わり、平成26年度からは新専攻科の立ち上げとして専攻科長を拝命してきました。このように全ての「立ち上げ」時に関わってきた小職として、皆様にご支援いただいたことに改めて御礼申し上げます。

本科の学際教育、およびその延長線上の新専攻科を含めた7年一貫教育は他高専に見られない（真似のできない）特色有る教育システムです。今後、これら教育シス

テムの中で学習した学生さんの活躍があって真の評価となるでしょう。しかしながら、(人材輩出という意味での)その評価はもう少し将来的な時間が必要です。また、学際教育と専攻科を含めた7年一貫教育内容をさらに発展させるためには、先生方の「改善と充実」に依存するほかございません。2014年度の専攻科概要に記載されているように、7年一貫教育は専門の融合複合化を目指しております。我が国の科学技術の発展を想定すると、明らかに知識の融合複合および一つの専門性の枠を越えた人材の複合化集団によって課題を解決しなければならない時代になっています。この辺りは学生さんの社会での活躍を期待しています。故に、標題に有るように「次世代への橋渡し」としての役目を小職は果たしたと考えております。

一方、押川研究室のOB会（予備会？）が過日開催され、「押川の有機化学授業は考えさせられることが多く、大変面白かった」と口々に言ってもらえたことは何よりも専門科目教員として嬉しく、悩みを打ち明けて「押川を尋ねてきて良かった」と言われたことは一教員として嬉しかった。こんな俺でも少しは役に立ったのかと思う。私と接してきた学生の皆さん！あなた方は私の誇りです。恐れることなく行動してみよう！

沼津高専のさらなる発展を130km離れた浜松より祈念しております。

卒業生・修了生から

高専生がよくやってしまう過ち

制御情報工学科5年 加藤 貴也

成人式を迎えて20歳になり、私の高専生活にも終わりが近づいてきました。

入学したときは「5年もあるのか・・・長いな・・・」と思っていましたが、気づけばあっという間に5年経ってしまいました。

さて、沼津高専は1年生の内から専門的な勉強ができ、学生寮もある、非常に特殊な環境だと思います。高校生と比べての大きな違いは、自由な時間が非常に長いことです。高専の学生はセンター試験を受験しないため、高校生に比べ2、3年次にかなり時間にゆとりが出来ます。この時間をいかに勉強等に有意義に活用できるかが、工学の知識や技術の実力を身に付けられるかを左右すると思います。しかし、私は当時、自由な時間の8割を趣味に当てており、テストは直前の暗記でごまかしてしま

た。その結果、私の犯したこの過ちが、4年5年と学年を重ねるごとに自分を苦しめることになったのでした。

4年になると、専門科目が一気に増えて、暗記するような勉強方法では頭が追いつかなくなりました。そんな私が大学の編入試験の勉強をしようとしたらどうなるか、賢明な皆さんならお分かりでしょう。編入試験では1～4年で学んだ「数学」、「物理」、「英語」に加え、専門科目も出題されます。暗記ではさすがに無理です。そこで、私は勉強方法を見直すことにしました。数学なら概念や公式等、本当に重要な部分だけを覚えることにし、あとはひたすら問題集と向き合う日々を過ごしました。

私は、最終的に自分の希望通りの進路に舵を取ることが出来ました。編入試験は、筆記試験の他にも面接での印象やエントリーシートの文章力も考慮されるので、勉強方法を変えたことが結果に直結したとは限りません。それでも、私自身は暗記する勉強方法にさよならできて良かったと思っています。在学生のみなさんも、ぜひこの機会にテスト直前の暗記をやめてみてはいかがでしょうか？

最後に、私が無事に卒業できるのは、今までお世話になった両親、先生方、学生の皆さんのおかげです。本当

にありがとうございました。

高専生活を振り返って

物質工学科5年 太田 智也

私が沼津高専に入学してから早くも5年が経とうとしています。普通高校では学ぶことができない実験実習や専門の勉強は有意義な経験であったと感じています。他にも高専祭や寮祭のスタッフ活動など、沼津高専での5年間は私に多くのことを経験させてくれました。今回はその中でも特に印象に残っている寮生活と勉強について書きたいと思います。

私は5年間寮生活をしました。私が5年まで寮生活をした理由は浜松出身で家が遠いからという理由もありますが、一番の理由は寮生活をするると色々な経験ができて楽しいからです。

寮では友人がすぐ近くにいるため、勉強の相談やミーティング、語りなどを通して友人達と接する時間が多くありました。多く接する時間があるがゆえに友人と仲が悪くなってしまうこともあり、そのことで悩んだこともありました。寮生活は共同生活であるため相手へ思いやりの気持ちがなくては周りとうまくやっていけません。その思いやりの気持ちが、1年生の頃の私には足りていなかったために友人とケンカしてしまったのではないかと思います。寮生活に慣れて、相手への思いやりを意識するようになってからは誰かと衝突することもほとんど

なくなり、寮が楽しいところであると感じるようになりました。

私は2年次と4年次に寮の役員を経験しました。役員である間は寮の制度や問題点について、同じ役員の人たちや先輩方と意見を交換する機会が多くありました。実際に問題解決まで至ったことは少ないですが、問題に対して様々な人と意見を交換して解決策を考えていくという経験ができました。寮生活で集団生活の知恵が身に付き、役員を経験することで一般寮生とは違う視点に立って寮生活をすることができました。

学業に関しては、私に合う勉強法を身に着けることができたという点で成長できたと感じます。入学当初は寮生活での時間の縛りや授業の難しさを感じ、とにかく時間を見つけて勉強していましたが成績維持が限界でした。しかし、2年生になる頃には「勉強したところを他人に説明してみる」という自分に合った勉強法を見つけることができました。他人に説明してみると予想以上に自分が理解していないことに気付くことがあるため、よく理解を深めるまで勉強するようになりました。その結果成績も全体的に良くなり、自分に合った勉強法の重要性を知ることができました。この身に着けた勉強法を大学編入後も活かして、より勉強に専念していきたいです。

最後に、私が無事5年生までやってこられたのは自分の力だけではなく親、先生方、友人のおかげです。卒業後も高専の名に恥じないように何事にも取り組んでいきたいです。5年間お世話になりました。

7年間を通して

総合システム工学専攻2年(環境エネルギー工学コース)
善養寺 千裕

私は小学生の頃から自動車に興味があり、将来は自動車業界で働こうと決めていました。小学5年生の頃、兄が高専に入学したのがきっかけで、私が勉強したい学科がここにあることを知り、その頃から高専を意識していました。そして7年前の春、機械工学科に無事入学できたのが私の夢の実現の第一歩となりました。ただ、専門教科はとても難しく、必死に勉強したのも今ではよい思い出となっています。

3年間の寮生活では、ルールが厳しいながらも寮部屋の相方や他学科の気の合う仲間、先輩方と出会い、週末には仲間と自転車から寮から静岡市まで行くなど、楽しい思い出もたくさんできました。それぞれが社会人や大学生になった今も一緒に旅行に行きます。そして寮生活は社会に出てからの協調性やチームワークを養う、とても

価値ある場でした。

専攻科は、自分たちの代から大きく改編され、1専攻3コース制になり、中でも1年の後期に4ヶ月間の長期インターンシップが組み込まれたことが魅力です。インターンシップでは小学生の頃から好きだった日本最高峰のレースチームにお世話になれるとは夢にも思っていませんでした。チームの現場ではレースマシンのオーバーホール、メンテナンスから、走行特性の解析など専門的なことまでレースにおける勝利に至るプロセス全てを経験しました。レースウィークになると実際にチームの一員としてサーキットへ出向き、設営からメカニックまで一連の作業を学びました。貴重な体験となった4ヶ月間のインターンシップは自動車業界を知る大きな強みになりました。このインターンシップの経験が評価され自動車関連の企業に内定をいただくことができました。これから進む職場では7年間で学んだ知識や経験が生かされ活躍できたらいいなと今から期待で夢膨らんでいます。

学生生活で唯一後悔していることがあります。それは長期休暇を有意義に過ごさなかったことです。3年前、休暇を利用して仲間と鈍行列車で北海道へ旅をしたり、

ヨーロッパ旅行に行ったりしたことがきっかけで旅行が好きになりました。まだいろいろな体験を積極的にできたはずだと思うと残念に思います。時間や自由があるの

は学生の時だけとよく言われますが学生のうちにさまざまなことにチャレンジしてもっと視野を広めることをお勧めします。

高専生活を振り返って

総合システム工学専攻2年（新機能材料工学コース）

森 大 洋

入学時15歳だった私も今年で22歳となり、今までの人生の3分の1をこの学校で過ごし修了を迎えます。この7年間を振り返ると、修了してしまうのを少し寂しく感じると同時に、私が大変恵まれた環境で学生生活を送ってきたことを実感します。

寮生活では自治を重んじ、自らの力を高めようとする先輩方に強く憧れました。彼らがとても自由だったからです。規律の中で工夫することこそが自由であり、楽しさであるという考えを学び、その考えのもとで私自身も寮生活を十分に楽しむことが出来ました。棟内でリーダーとなったのちには、考えを上手に伝えられず、手本として振る舞えない自分に悩むときがありました。そんなときには同じ寮に住む仲間と叱咤激励され、自分を奮い立たせることが出来ました。遠慮なく語り合える、そんな良い仲間と出会えたことも、私の寮生活の財産です。

部活動でも多くのことを経験しました。私はサッカーが下手で、自分の思う通りに出来ないことに対する苦しみや恥ずかしさから、幾度も退部を考えました。そんな

ときほど、私はがむしゃらに練習しました。この苦しみから逃げってしまうことが敗北だと考えたからです。高専での選手生活を振り返ってみると、苦しかったときほど肉体的にも、精神的にも成長できたと思います。そして、苦しい中でも努力することが出来たのは、入部当初から期待をかけてくださった監督やコーチの方々、共に戦ったチームメイトが、私の成長に喜びを与えてくださったおかげです。最終的には高専大会で全国大会に出場し、東海大会で優秀選手賞を頂きました。この経験を自信として、これからも様々なことに挑戦できそうです。

研究活動では、いまだ学ぶことばかりです。既定の答えのない研究は、真剣に取り組むほどに苦しみを伴い、興味深いものであることは、研究活動を始めたばかりの私にも感じ取ることが出来ます。私にとっての研究活動はここで終わりではなく、今春からはじまる大学院生活、もしかするとその先の人生まで続いていくものです。これからの研究活動をより良いものにしていくためにも、良い研究者のお手本である先生から、少しでも多くのことを学ぶことを目標として研鑽を続けていきます。

7年間を振り返ると、沼津高専には私の将来のために尽力してくれる先生、尊敬できる先輩、高め合える友、愉快な後輩たちがいました。たくさんの人から得たものを忘れず、「人柄のよい優秀な技術者」を目指し、またこれを超える人材となるべく頑張っていきます。

私 の 高 専 時 代



人生の分岐点となった 高専時代

電子制御工学科 2期
大 庭 勝 久

私が電子制御工学科の2期生として沼津高専に入学したのは昭和62年4月のことである。当時は真新しい「制御」という言葉を学科名に持つ電子制御工学科に魅力を感じ志望した。

当時の電子制御工学科は、何もかもが新しく、日々新鮮な気持ちで学生時代を過ごすことができた。また、クラス内には議論・話し切磋琢磨する雰囲気があったことが私の人生に多大な影響を与えた。

私自身は、高専に入学して初めてパソコンに触れたが、多くの級友は中学時代からプログラミング経験があり、キー操作にも熟練しブラインドタッチは当たり前という

具合で差を感じたが、コンピュータを使用した授業は楽しかった。3年次のC言語の授業では、企業でプログラム開発に携わっている現役の技術者が担当された。C言語を学ぶものにとって大きな壁となるポイントが初回の題材であり、電卓をプログラミングで作成するという授業にびっくりした。企業における開発のスピード感を肌で感じた。

現在も続いている小型自律移動ロボットの授業では、ロボット開発の基盤になる資料の整備や基本仕様の策定から始まるものであった。例えば、駆動系に使用するギアボックスの設計や、距離計測に使用する超音波センサ素子の特性を調べ、どのようにセンサとしてロボットに組み込むかを検討するという、地道なところから組み込まれた。結局、1年半の開発期間ではロボットの本体を製作するには至らなかったが、競技会でプラットフォームが自走したり回転したりしたときにはみんなで拍手喝采となったことが良い思い出である。

当時に比べると、今は専門分野や進路も多様化し、選

扱が豊富になっていることは喜ばしいことである。その一方で、様々な分野へと繋がりをもつ高専の果たす役割は益々重要になっていると考える。それと同時に、学生には、自分の将来像を明確に持つことが求められている。30年近く前の学生時代から、工学技術者にとって複数の専門分野に精通することの重要性が説かれており、その思想は現在にも通用するものである。私は現在、機

械系実験流体力学と呼ばれる分野で研究活動を行っている。ここでは、実験装置や計測機器、自動実験システムや解析プログラムを自ら設計・製作し、機械・電気電子・情報処理の知識を融合させている。電子制御工学科で培った複数分野の専門知識が基盤となっておりとても感謝している。私自身も10年後20年後に役立つ教育を実践したいと常々考えている。

学生の研究活動 (2015.4.1~2016.3.31)

総合システム工学専攻

EC：環境エネルギー工学コース AC：新機能材料工学コース MC：医療福祉機器開発工学コース

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
EC2	○小林隆志 善養寺千裕	ボイラ研究 第394号(2015年12月)、 pp.10-15	過酷環境下におけるガスケット付きフランジ締結体の密封性能に関する研究(温度と振動外力の影響)	小林隆志
EC2	○Takashi Kobayashi Chihiro Zen-yoji	Proceedings of the ASME 2015 Pressure Vessels & Piping Conference PVP2015, PVP2015-45472	Effectiveness of Retightening in Maintaining Higher Residual Bolt Loads and Tightness of Bolted Flanged Connections	小林隆志
MC2	○大庭勝久 戸本佳佑	日本機械学会論文集, Vol.82, No.833(2016), DOI: 10.1299/transjsme.15-00462.	FPGAを用いた抵抗線温度計用の周波数補償系の構築	大庭勝久
AC2	○齋藤亮 馬飼野祐貴 大沼巧	IEEJ Journal of Industry Applications, Vol.4, No.4, pp.454-459, July 2015	Adaptive Signal Injection Method Combined with EEMF-based Position Sensorless Control of IPMSM Drives	大沼巧

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

第12回アジア栄養学会議/パシフィック横浜/2015.5.15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	山田瑞恵	Preventive effects of Anredera cordifolia leaf extract on hepatic and renal disorders in high fat and high fructose diet-treated mice (芳野恭士、丸山浩司、嘉島康二)	芳野恭士

MC2	佐野徳美	超音波診断におけるプローブ走査支援を目的とした断層像取得アプローチ補助システムの構築(梅原優太、渡邊智郎)	青木悠祐
MC1	瀬戸翔太	超音波診断・治療補助ロボット ReDAT による協調動作に基づいた断層像取得アプローチ実験(田中優斗、西村和真)	青木悠祐

ROBOMECH2015 in Kyoto/ 京都市勤業館「みやこめっせ」/2015.5.17~19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	田中優斗	橋梁調査・点検ロボットシステムの構築(遠藤祐太郎、瀬戸翔太、鈴木克真、佐野徳美)	青木悠祐
MC2	遠藤祐太郎	超音波診断における生体信号所為に基づいた検査者疲労軽減に関する一考察(高橋一将、富岡悠二)	青木悠祐

The 4th International GIGAKU Conference in Nagaoka (IGCN2015) /長岡技術科学大学/ 2015.6.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	笹本菜摘	Removal of pulp fibers in pulp and paper mill wastewater by flocculation using <i>Geotrichum</i> sp. M111-3 (N. Sasamoto, K. Suzuki, W. Ogasawara, Y. Shida) 優秀ポスター賞 (Best Poster Award) を受賞	竹口昌之

AC1	鈴木裕貴	Purification and Characterization of Saccharolytic Enzyme from <i>Geobacillus</i> sp. (Y. Suzuki, K. Kurihara, W. Ogasawara, Y. Shida, M. Takeguchi)	竹口昌之
-----	------	--	------

2015 IEEE 11th ICPADM (International Conference on The Properties and Applications of Dielectric Materials) / University of New South Wales, Sydney, Australia / 2015.7.19~22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	木口卓巳	High-Field Dielectric Property of PET Film under AC Ramp Voltage Application (Takumi Kiguchi and Kazuyuki Tohyama)	遠山和之

ISTS2015 (5th International Symposium on Technology for Sustainability) / Universiti Teknologi Mara (UiTM), Malaysia / 2015.8.4~5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	青島圭汰	Rocking Vibration of Rigid Block under Simulated Seismic Wave (鄭)	鄭 萬 溶

電気学会 産業応用部門大会 / 大分大学 / 2015.9.2~4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	齋藤 亮	IPMSM の位置センサレス制御のための効率評価に基づく重畳信号周波数の最適化	大沼 巧 高野 明夫
EC1	岩田大輝	最大トルク制御座標系を用いた電流制御によるトルクリプル補償	大沼 巧

第46回 電気電子絶縁材料システムシンポジウム / 九州工業大学百周年中村記念館 / 2015.9.3~5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	二見啓之	表面に傷をつけたフィルム試料の交流高電界下での損失電流波形と電界発光(二見啓之、遠山和之、堂本亮*、村田義直*) *(株)ジェイ・パワーシステムズ	遠山和之

日本育種学会 第128回講演会 / 新潟大学 / 2015.9.11~12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	小川 桜子	Camellia属におけるDart(Direct Analysis in Real Time)スペクトルの特徴(押川達夫、芳野恭士、古川一実)	古川一実

日本機械学会2015年度年次大会 / 北海道大学 / 2015.9.13~16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	渡邊信太	CFRP積層板の低速衝撃パンチ加工(松田伸也、矢代茂樹、黄木景二)	松田伸也

AC1	望月 爽馬	フレット疲労き裂のその場観察(西田友久、水谷淳之介、武藤睦治)	西田友久
-----	-------	---------------------------------	------

第116回触媒討論会 / 三重大学 / 2015.9.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	森 大洋	低水素分圧、水蒸気共存下の活性炭担持ルテニウム触媒を用いるアンモニア合成(福井慧賀、辻井明日香、稲津晃司)	稲津晃司

平成27年電気学会 基礎・材料・共通部門大会 / 金沢大学 / 2015.9.17~18

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	木口卓巳	交流ランプ電界印加時のPETフィルムの高電界誘電特性(木口卓巳、遠山和之)	遠山和之

日本化学会第5回CSJフェスタ2015 / タワーホール船堀(東京) / 2015.10.13~15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	金子喬士郎	セルラーゼによるバガス糖化反応促進物質の探索(伊藤俊治、竹口昌之、蓮実文彦)	蓮実文彦 竹口昌之
AC2	秋山沙理奈	植物性乳酸菌代謝産物が大腸菌生育に与える影響	蓮実文彦
AC2	森 大洋	担持ルテニウム触媒を用いる水蒸気共存下のアンモニア合成 (優秀ポスター発表賞受賞) (秋山健太郎、稲津晃司)	稲津晃司

日本機械学会山梨講演会 / 山梨大学工学部 / 2015.10.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	善養寺千裕	振動と熱の作用を受ける配管フランジ締結体の密封特性(小林隆志)	小林隆志
EC1	古田 泰大	静的曲げモーメントを受ける配管フランジ締結体の密封特性(小林隆志)	小林隆志
研究生	土橋 大海	三次元座標測定機による閉止フランジ締結体の変形測定(小林隆志、佐々木俊亮)	小林隆志

2015 IEEE/CEIDP (Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena) / Sheraton Ann Arbor Hotel / 2015.10.18~21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	二見啓之	High Field Dielectric Properties of Low Density Polyethylene with a Very Small Dent on Film Surface Under AC Ramp Electric Field Application (Hiroyuki Futami and Kazuyuki Tohyama)	遠山和之

第20回静岡健康・長寿学術フォーラム/
静岡グランシップ/2015.10.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	秋山沙理奈	Effect of culture supernatant of <i>Lactobacillus pentosus</i> on <i>E.coli</i> growth (Poster Presentation Award)	蓮実文彦
AC2	山田瑞恵	Preventive effects of ethanol extract prepared from <i>Anredera cordifolia</i> leaf on hepatic disorders in high fat and high fructose diet-treated mice (丸山浩司、嘉島康二、山内健矢、新井康介、榊山達也、芳野恭士)	芳野恭士
MC2	小關元気	Inhibitory effects of extracts prepared from leaves and stems of <i>Salacia</i> plant on skin ageing (芳野文香、金高隆、芳野恭士)	芳野恭士
MC1	伊藤 彩	Inhibitory effect of various teas treated by Kosencha-process on rat small intestinal α -glucosidase activity (芳野恭士、清水篤)	芳野恭士

第45回石油・石油化学討論会/
ウイंकあいち(名古屋) /2015.11.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC	金子喬士郎	セルラーゼによるバガス糖化反応促進物質の探索(伊藤俊治、竹口昌之、蓮実文彦)	蓮実文彦 竹口昌之

第46回中部化学関係学協会支部連合秋季大会/
三重大学工学部/2015.11.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	植田瑞紀	マグネシウム加水分解反応に対する金属塩の共存効果(藁科知之、大川政志)	藁科知之

第58回自動制御連合講演会/神戸大学 六甲台
第2キャンパス(工学部) /2015.11.14~15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	鈴木克真	超音波診断支援のための熟練手技解析に基づいた特徴量抽出(佐野徳美、遠藤祐太郎)	青木悠祐
MC2	遠藤祐太郎	生体信号処理に基づいた疲労要因分析と超音波診断支援システムの提案(鈴木克真、田中優斗)	青木悠祐
MC2	佐野徳美	超音波診断におけるメンタルローテーション能力の計測と評価(鈴木克真)	青木悠祐

日本育種学会中部談話会第23回講演会/
愛知県農業試験場/2015.11.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	小川 桜子	カフェイン合成における <i>Camellia</i> 属植物のシークエンスおよびDartスペクトルの比較(押川達夫、芳野恭士、荻野暁子、古川一実)	古川一実
C5	小泉舞衣	ボンバードメント法を用いたチャ(茶樹)の形質転換プロセスにおける培養特性(大嶋雅夫、田部井豊、古川一実)	古川一実
C5	杉山昇平 太田智也	TCS1配列比較を目的とした <i>Camellia</i> 属植物の染色体 FISH. (古川一実)	古川一実

16th Asia Pacific Vibration Conference/
HUST, Hanoi, Vietnam/2015.11.24~26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	青島圭汰	Rocking Vibration of Rigid Block under Simulated Seismic Wave (鄭)	鄭 萬溶

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2015/
キラメッセぬまづ/2015.12.11

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	善養寺千裕	高温下で動的曲げモーメントを受ける配管系フランジ締結体の密封特性に関する研究(小林隆志) 機械・電気電子分野 最優秀ポスター賞	小林隆志
E5	荻島規宏	デルタ型3Dプリンタの機構を利用した3次元磁界分布測定システムの作製(嶋直樹)	嶋 直樹
D5	赤池郁也	超音波診断におけるメンタルローテーション能力の計測とロボット支援システムの提案(佐野徳美) 制御・情報分野 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	五十嵐雄介	ロボットによる超音波診断支援のための協調動作システムの構築(瀬戸翔太、田中優斗)	青木悠祐
D5	石井建至	遠隔力覚転送システムのためのテレコピーロボットに関する基礎研究(田中優斗)	青木悠祐
D5	大山拓真	橋梁調査・点検ロボットによる橋梁下撮像システムの構築(遠藤祐太郎、鈴木克真) 制御・情報分野 最優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	新谷純弥	交通流シミュレーションシステムの開発(その1)	鄭 萬溶
D5	萩原実可子	交通流シミュレーションシステムの開発(その2)	鄭 萬溶
D5	藤原秀平	打音診断システムの開発に関する研究	鄭 萬溶
D5	加藤慶悟	Wavelet解析を用いた話者判別に関する研究	鄭 萬溶

MC2	木村 美咲	3Dシミュレーション上における自律型レスキューロボットの開発 (尾関主馬)	川上 誠
EC2	田代 智貴	要救助者搬送制御機構を有したレスキューロボットの開発 (野中大志)	川上 誠
MC1	山田 知史	ロボカップサッカーロボットのための自己位置推定プラットフォームの開発 (古儀和歩)	川上 誠
D5	戎 高佑 小倉 将也	地域廃棄物の資源化システムの構築 ~ 蒸留塔自動制御システムの開発 ~ 環境・生態・防災・資源分野 優秀ポスター賞	大庭 勝久 竹口 昌之
AC2	秋山 沙理奈	<i>Lactobacillus pentosus</i> S16株培養上澄が腸内悪玉菌生育に与える影響	蓮 実文彦
AC2	小川 桜子	さまざまな状況におけるチャ (<i>Camellia sinensis</i>) のカフェイン検出および検出法の比較 (古川一実)	古川 一実
C5	小倉 将也	地域廃棄物の資源化システムの構築 ~ 製菓工場廃シロップを利用したバイオエタノール生産 ~ (小倉将也、戎高佑、大庭勝久、竹口昌之) 環境・生態・防災・資源分野 優秀ポスター賞	竹口 昌之 大庭 勝久
AC2	笹本 菜摘	繊維凝集性酵母のセルロース微細繊維凝集性に与える添加物の影響 (笹本菜摘、志田洋介、小笠原渉、竹口昌之) バイオ・生物・材料・触媒分野 最優秀ポスター賞	竹口 昌之
MC2	吉永 孝行	メチルメルカプタン用バイオセンサーの開発 (5. 吉永孝行、蓮実文彦、竹口昌之)	竹口 昌之 蓮 実文彦
AC2	山田 瑞恵	アカザカズラのエタノールエキスの高脂肪高ショ糖食飼育マウスにおける肝障害に対する予防作用 (山内健矢、新井康介、榊山達也、芳野恭士)	芳野 恭士
MC2	小關 元気	コタラヒムブツの葉と幹の抽出物の皮膚老化に対する阻害作用 (芳野文香、金高隆、芳野恭士)	芳野 恭士

ソイルエンジニアリングシンポジウム/
長岡技術科学大学/2015.12.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	笹本 菜摘	繊維凝集性酵母 <i>Geotrichum</i> sp. M111-3を利用した製紙廃水中微細繊維の回収 (笹本菜摘、鈴木康平、志田洋介、小笠原渉、竹口昌之)	竹口 昌之

第21回高専シンポジウムin香川/丸亀市民会館、
丸亀市生涯学習センター/2016.1.23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	白鳥 大毅	機能性結晶薄膜集積化のための小型加熱ヒーター試作と特性評価	野毛 悟
E5	多田 拓	シリコン基板を用いた薄膜形成装置用ヒータの作製と特性評価	野毛 悟
E5	望月 夏鈴	規則性ナノ構造を有する多孔質薄膜形成法	野毛 悟
D5	戎 高佑 小倉 将也	蒸留塔監視システムの開発によるバイオエタノール蒸留の効率化	大庭 勝久 竹口 昌之
D5	西留 直人 野 千輝	理科教育支援を目的とした振り実験環境の開発 工学教育分野 ポスター発表賞	大庭 勝久
D5	赤池 郁也	超音波診断におけるプローブ走査時のメンタルローテーション能力の評価 (佐野徳美、鈴木克真)	青木 悠祐
D5	五十嵐 雄介	超音波診断・治療補助ロボット ReDAT による協調動作のための検査者の意図推定 (瀬戸翔太、田中優斗)	青木 悠祐
D5	石井 建至	遠隔力覚共有を目的とした双腕テレコピーロボットの開発 (田中優斗)	青木 悠祐
D5	大山 拓真	臓器トラッキングのための超音波断層処理に基づくビジュアルフィードバック系の構築 (佐野徳美)	青木 悠祐
D5	吉村 大地	橋梁調査・点検のためのレール走行型橋梁下面撮像ロボットの開発 (大山拓真、遠藤祐太郎、鈴木克真)	青木 悠祐
C5	鎌倉 宗太朗	NdMnRu _{0.5} Ti _{0.5} O ₅ の合成と構造に関する研究 (小林美学)	後藤 孝信 小林 美学
AC2 C5	山田 瑞恵 本間 英基	アカザカズラ抽出物のマウス非アルコール性脂肪性肝炎モデルに対する予防作用 (山内健矢、新井康介、榊山達也、芳野恭士)	芳野 恭士
MC2 C5	小關 元気 池谷 綾乃	サラシアの葉と幹の抽出物の皮膚におけるアンチエイジング作用 (芳野文香、金高隆、芳野恭士)	芳野 恭士

静岡大学-台湾科学技術大学 研究交流ワークショップ/
静岡大学浜松キャンパス/2016.1.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	望月 爽馬	Design of Fretting Fatigue Specimen Mountable to SEM SERVOPULSER for Ultrasonic Fatigue Testing Machine. (Souma Mochizuki, Reo Kasahara, Yoshinobu Shimamura, Keiichiro Tohgo, Tomoyuki Fujii, Tomohisa Nishida)	西田 友久

電子情報通信学会 集積光デバイスと応用技術研究会/
東レ総合研修センター/2016.3.3~4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	白鳥大毅	Si系光集積回路に適用可能なコンタクトエピタキシャル法の検討(多田拓、望月夏鈴)	野毛 悟
E5	多田 拓	Si系光集積回路に適用可能なコンタクトエピタキシャル法の検討(白鳥大毅、望月夏鈴)	野毛 悟
E5	望月夏鈴	Si系光集積回路に適用可能なコンタクトエピタキシャル法の検討(白鳥大毅、多田拓)	野毛 悟

電子情報通信学会東海支部 平成27年度卒業研究発表会/
愛知県立大学 情報科学部棟/2016.3.4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	相原直紀	シャドウィング環境における無線アドホックルーティングのエネルギー効率	山崎 悟史
S5	安孫子 悠	無線全二重マルチホップ通信の電力消費低減化に関する一検討	山崎 悟史

第18回化学工学会学生発表会(浜松大会) /
静岡大学/2016.3.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	安藤知佳	製紙廃水凝集物の酵素糖化によるグルコースの生産(安藤知佳、小林和樹、笹本菜摘、志田洋介、小笠原渉、竹口昌之)	竹口昌之
C5	小倉将也	製菓工場廃棄バイオマスからのエタノール生産(小倉将也、戎高佑、大庭勝久、竹口昌之)	竹口昌之 大庭勝久

文部科学省原子力人材育成事業等推進事業フォーラム/
学術総合センター/2016.3.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	鈴木英明	原子力人材育成教育活動の成果報告	西村賢治

日本セラミックス協会 2016年年会 /
早稲田大学/2016.3.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	加藤瑛司	DLS及びUV-VISによるFe含有Ge-imogoliteの生成過程の検討(渡邊みなみ、長田華穂、山根説子、大川政志)	大川政志

第31回茶学術研究会/ホテルアソシア静岡/2016.3.16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1 C5 C5	伊藤 彩 窪田巧輝 塩川阿子香	種々の緑茶の香煎茶処理による保健作用の変化(芳野恭士、清水篤)	芳野恭士

第63回応用物理学会春季学術講演会/
東工大 大岡山キャンパス/2016.3.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	伊藤 彩	長尺CNTの分散剤レス分散処理(権田秀雄、徳富純一郎)	芳野恭士

日本育種学会 第129回講演会/
横浜市立大学/2016.3.20~22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2 C5 C5	小川 桜子 杉山昇平 太田智也	Camellia属植物におけるリボソーム遺伝子の多様性と染色体構成(飯田誠也、近江戸伸子、古川一実)	古川一実
C5 C5	小泉舞衣 堀内郁美	チャ(茶樹: Camellia sinensis)の形質転換のための不定胚培養プロセス(大嶋雅夫、田部井豊、一家崇志、森田明雄、古川一実)	古川一実

日本化学会第96春季年会/
同志社大学/2016.3.24~27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	秋山健太郎	Effects of ruthenium precursor, support, and activation process on ammonia synthesis activity of supported ruthenium catalysts under high reaction pressure(森大洋、稲津晃司)	稲津晃司
C5	山崎翔太	両親媒性ヒアルロン酸を介したリン酸カルシウム粒子の作製(山根説子、澤田晋一、佐々木善浩、秋吉一成)	山根説子



平成27年度卒業生・修了生進路先一覧

平成28年3月1日現在

機械工学科

34名

就職先企業

15名

浜松ホトニクス株式会社	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1
JXエンジニアリング株式会社	1
株式会社レイズ	1
静岡ガス株式会社	1
日立オートモティブシステムズ株式会社	1
株式会社資生堂	1
株式会社アトックス	1
中央発條株式会社	1
JX日鉱日石エネルギー株式会社	1
東洋インキ株式会社	1
アステラスファーマテック株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
株式会社三保造船所	1
就職未定	1

進学（編入学）先大学等

19名

山形大学工学部	1
茨城大学工学部	1
東京大学工学部	1
東京工業大学工学部	1
新潟大学理学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
信州大学工学部	1
静岡大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	6
大阪大学工学部	1
神戸大学理学部	1
首都大学東京都市教養学部	1
進学希望	2

電気電子工学科

38名

就職先企業

13名

株式会社JALエンジニアリング	1
株式会社関電工	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
株式会社日立ハイテクサイエンス	1
株式会社日立ビルシステム	1
三菱電機ビルテクノサービス株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
株式会社明電舎	1
小野薬品工業株式会社	1
株式会社NHKアイテック	1
中部電力株式会社	1
アステラスファーマテック株式会社	1
東京コンピュータサービス株式会社	1

進学（編入学）先大学等

25名

千葉大学工学部	3
東京農工大学工学部	2
東京工業大学工学部	2
お茶の水女子大学理学部	1
横浜国立大学理工学部	2
長岡技術科学大学工学部	2
福井大学工学部	1
岐阜大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
立命館大学理工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	7

電子制御工学科

41名

就職先企業

20名

株式会社LIXIL	1
THKインテックス株式会社	1
ANAラインメンテナンステクノス株式会社	1
シチズン電子株式会社	1
株式会社アステック	1
矢崎総業株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
オムロンフィールドエンジニアリング株式会社	1
第一精工株式会社	1
有限責任事業組合プラモ	1
独立行政法人国立印刷局	1

伊豆急行株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1
天間特種製紙株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
三浦工業株式会社	1
スター精密株式会社	1
就職未定	1

進学（編入学）先大学等

21名

北海道大学工学部	1
東京工業大学工学部	1
横浜国立大学理工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
沼津工業高等専門学校専攻科	13
進学希望	2

制御情報工学科

33名

就職先企業

8名

株式会社日本一ソフトウェア	1
株式会社テクノサイト	1
東京ガス株式会社	1
シチズン電子株式会社	1
株式会社システムシェアード	1
株式会社明電舎	1
浜松ホトニクス株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1

進学（編入学）先大学等

25名

北海道教育大学教育学部	1
筑波大学情報学群	1

群馬大学社会情報学部	1
千葉大学工学部	2
電気通信大学情報理工学部	1
新潟大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	2
信州大学繊維学部	1
金沢大学理工学域	1
静岡大学情報学部	2
名古屋大学情報文化学部	1
豊橋技術科学大学工学部	7
大阪大学基礎工学部	1
九州大学芸術工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	1
進学希望	1

物質工学科

39名

就職先企業

17名

Meiji Seika ファルマ株式会社	1
小野薬品工業株式会社	2
イハラニッケイ化学工業株式会社	1
株式会社タウンズ	1
静岡ガス株式会社	1
東芝機械株式会社	1
東レ株式会社	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1
クノール食品株式会社	1
富士フイルムビジネスエクスパート株式会社	1
東邦化工建設株式会社	2
旭化成株式会社	1
アステラスファーマテック株式会社	1
サントリースピリッツ株式会社	1
日東電工株式会社	1

進学（編入学）先大学等

22名

千葉大学工学部	1
東京農工大学農学部	1
東京工業大学工学部	1
東京工業大学生命理工学部	1
東京海洋大学海洋科学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
信州大学繊維学部	2
金沢大学理工学域	2
岐阜大学応用生物科学部	1
岐阜大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
三重大学生物資源学部	1
大阪大学工学部	1
神戸大学農学部	1
岡山大学理学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	4

総合システム工学専攻**環境エネルギー工学コース**

5名

就職先企業

3名

日本電子株式会社	1
日医工ファーマテック株式会社	1
横浜ゴム株式会社	1

進学先等

2名

横浜国立大学大学院 環境情報学府	1
首都大学東京大学院 システムデザイン研究科	1

新機能材料工学コース

9名

就職先企業

6名

森永乳業株式会社	2
三菱化学ハイテクニカ株式会社	1
富士市役所	1
日興製薬株式会社	1
株式会社リンクス	1

進学先等

3名

東京工業大学 物質理工学院（修士課程） 材料系	1
横浜国立大学大学院 工学府	1
九州大学大学院 工学府	1

医療福祉機器開発工学コース

10名

就職先企業

5名

東海電子株式会社	1
ユニ・チャームプロダクツ株式会社	1
株式会社NHKメディアテクノロジー	1
株式会社 堀場テクノサービス	1
エミック株式会社	1

進学先等

5名

東北大学大学院 工学研究科	1
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	1
名古屋大学大学院 創薬科学研究科	1
豊橋技術科学大学大学院 工学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	1

教育後援会から

卒業に際して

教育後援会会長 鈴木 邦 裕

卒業される学生の皆様、ならびに保護者の皆様、まことにおめでとうございます。また、教職員の方々をはじめ、学校生活に携わるすべての方々におかれましては、卒業生に対しこれまで多大なるご尽力を賜りましたこと、保護者を代表して心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆様（以下「君達」）は、入学以来これまで同級生や先輩・後輩らと概ね同じ道のりを歩んできましたが、これからの道はそれぞれ分かれていきます。そこで出会う人やモノも違うものとなっていきます。しかしながら一生涯通じて共通していくことは、その先々で君達の履歴には「沼津高専卒業」と刻まれ、君達の背中には「沼津高専卒業生」という看板が背負わされるということです。これはこれから様々な人と会い、付き合っていく中で、相手にとって君達を品定めするためのわりと重要な尺度となります。でも安心してください。卒業生ではない私が言うのもなんですが、その看板はこれまでの先達がピカピカに磨き上げてきています。誇りを持って背

負って恥ずかしくないものです。卒業後はその光を褪せさせることなく、さらに磨きをかけていただければと期待します。そのことが学校への最大の恩返しとなります。

剣道の言葉に「守・破・離」というものがあります。修練の段階を示したものです。君達は言うまでもなく「守」の段階です。卒業後もしばらくはそうでしょう。ただし、いつ破っていいか、いつ離れていいかという合図は誰も出してはくれません。この「破」は師匠以外の教えを請うたり、良いものを取り入れたりするという意味ですが、それは待っていても向こうからはやってきません。自分で探してください。自分で取りにってください。守りながら破ってってください。その力は高専での学校生活で充分身につけているはずで、自信を持って人と会い、人と交わり、互いを高め合ってください。

訓話じみた話ばかりとなりましたが、親の小言となんとかは程度に心に留めておいていただければ幸いです。ややもすると、もう成人である君達には釈迦に説法かもしれませんが、キリがないのでこれぐらいにしておきます。くどくどしいのは親の性なのでご容赦ください。君達の未来には希望しかありません。自分の可能性を信じて、それぞれの道を全力で突き進んでください。お頼み申し上げます。

同窓会から

みなさん同窓会へようこそ
(卒業生、在学生みんなのネットワーク)

同窓会会長（機械工学科6期）木戸 実

希望と不安を抱きながら社会へ旅立つ、今年卒業・修了の皆さん、それを見守るご家族の方々、この度は大変おめでとうございます。沼津高専で学んだこと、失敗も成功もいろいろに経験したこと、それぞれが各人自身の土壌として、これからの活動エネルギーとして活かされていくことを切に願っています。

当校の校訓である「人柄のよい優秀な技術者となって

世の期待に応えよ」を分かち合う我々同窓生が、折に触れてお互いの連絡や連携を取り合えるよう同窓会を運営しています。それが同窓生自身のために、また在学生に、広くはよりよい未来の創造、平和と豊かな社会の実現に役立つことを願う次第です。

沼津高専同窓会は1967年3月開設以来48年が経過し、その間の卒業生の数は今年3月の卒業予定者を含めると8,900名を超える組織規模となりました。この状況で同窓会が拠り所とするものは、同窓会ホームページ（以下同窓会HP）と同窓会名簿です。従来からも同窓会HPを広報ツールとして運用していましたが、より一層の更新頻度と内容の充実を目指していきます。特に同窓会員から

の情報の吸い上げや発信などにも力を入れていきたいと考えています。

同窓会名簿については、今迄は5年毎に名簿情報を更新して印刷冊子として配布していましたが、昨年からはインターネットクラウドシステムを構築し、同窓会HPからアクセス出来る方式としました。冊子の不用意な外部流通や悪用を抑え、同窓会員に限定した情報アクセスで、年代を超えての同窓会員間の有用な連携ツールとしていくこと。このために最新の会員情報、名簿システム機能の充実改善、セキュリティ確保は常に併せ持ちながら、一步一步の改善を進めていきます。

皆さんから納付していただいた同窓会終身会費は、同窓会の運営活動費として、同窓会名簿やHPの運営管理・在学生の活動援助・奨学金・通信会議費・学校への寄付などに使用しています。新しい試みの一つとして昨年から「小さな同窓会支援事業」と称し同窓生の集まりには支援金（10名以上の場合に1万円、20名以上で2万円）を支給することも始めました。これも広く利用してください。

みなさんと一緒に育て運営する同窓会にしていきたいと思います。（同窓会HP <http://www.nct-dsk.com>）



事務部から

平成28年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生の、平成28年度前期授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は原則として、「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法 授業料免除申請書または授業料徴収猶予申請書（所定様式）を学生係へ提出する。

提出期限 平成28年3月31日(休)

※所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。

※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。

注意事項 1 平成27年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。

2 ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。

沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、その中で、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。

このため、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。

皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等を行います。原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。（ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます）
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

行事予定表

平成28年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年生合宿研修
防災訓練

5月 後援会総会・保護者懇談会
寮祭
スポーツ大会・学生総会
平成29年度専攻科推薦入試

6月 前期中間試験
平成29年度専攻科学力入試

7月 東海地区高専体育大会
1～4年生保護者懇談会

8月 全国高専体育大会
平成29年度編入学試験

9月 一日体験入学
寮生リーダー研修
2年生ミニ研究発表会
前期末試験

10月 東海北陸地区ロボコン大会
4年生工場見学
中学生のための体験授業
2年生特別研修

11月 体育祭・学生総会
高専祭・ミニ体験授業
文化講演会
東海北陸地区英語スピーチコンテスト
授業参観・学科説明会
ロボコン全国大会
後期中間試験

12月 テクノフォーラム
4年生工学系数学統一試験
留学生交流会

平成29年

1月 3年生学習到達度試験
3年生合宿研修
平成29年度推薦入試

2月 学年末試験
平成29年度学力入試
5年生卒業研究発表

3月 寮生リーダー研修
卒業式・修了式





ミニ研究発表会



ミニ研究発表会

